



学校だより



創立 60 周年記念誌

—平成 24(2012)年度～令和 3(2021)年度—

独立行政法人国立高等専門学校機構
明石工業高等専門学校



9 代目校長
京 兼 純

在職期間
平成 20 (2008) 年 4 月 1 日
～
平成 27 (2015) 年 3 月 31 日



10 代目校長
笠 井 秀 明

在職期間
平成 27 (2015) 年 4 月 1 日
～
令和 2 (2020) 年 3 月 31 日



11 代目校長
神 戸 宣 明

在職期間
令和 2 (2020) 年 4 月 1 日
～
令和 4 (2022) 年 3 月 31 日



このロゴマークは、高専制度創設 60 周年記念事業の一環として公募され、多数の応募の中から最優秀賞に輝いた、本校電気情報工学科 5 年生(令和 3 (2021) 年度)今吉友希さんの作品です。

作成者のコメント

「60 周年の 60 の数字から導かれる大きな円により、現在そしてこれからの未来を切り開く高専生の「勢い、真っ直ぐさ、大胆さ」を表現しました。また、高専機構の HP などでも用いられる青色や、工業を連想させる歯車をロゴマークに入れることにより親しみやすいデザインにしました。」



創立60周年記念挨拶

— 「排除から配慮へ」、豊かで成熟した日本社会に
相応しい高専を目指して—

12代目校長

土居 信数

明石工業高等専門学校は、高専制度創設第一期校として昭和37(1962)年4月に設置され、創立60周年の節目を迎えました。関係各位の日頃からのご理解・ご協力、ご支援に心より感謝申し上げます。

今回は60周年の節目にあたり、平成24(2012)年度以降の10年間の歴史を振り返ることといたしました。

施設・設備については、平成24(2012)年に正門、平成25(2013)年に学生寄宿舍C寮の改修を終え、新たに平成26(2014)年に情報メディアセンター、平成27(2015)年に協同学習センター、グローバルエデュケーションオフィス及び国際交流プラザ、令和3(2021)年に国際寮が完成しました。

実施事業については、平成24(2012)年度に文部科学省大学間連携共同教育推進事業として「近畿地区7高専連携による防災技能を有した技術者教育の構築」、平成26(2014)年度には文部科学省大学教育再生加速プログラム(AP)「テーマI(アクティブ・ラーニング)」に採択され、学科の枠組みを超えた教育カリキュラムを新設しました。加えて、平成26(2014)年度に国立高専のアクティブ・ラーニング推進モデル事業に採択され、学生の主体性・能動性を高める授業改善を進めています。また、平成29(2017)年度及び平成30(2018)年度には、各国立高専の強み・特色を伸長することを目的とする“KOSEN(高専)4.0”イニシアティブ事業に採択され、「入学から卒業まで一貫したイノベーション人材の育成」及び「海外教育機関との協働によるグローバルイノベーション人材育成プログラムの構築」に取り組みました。

地域社会との連携については、平成25(2013)年度に明石高専産学連携交流会が設立され、教育研究の両面において、本校と地域企業・自治体等の地域産業との連携・交流を深めています。

国際交流関係では、平成26(2014)年度に国立高専のグローバル高専モデル事業に採択され、平成27(2015)年度に組織整備を行い、グローバルエデュケーションセンターを設置し、世界中の多様な人々と協働できる資質を身に付けるための取組を行っています。

高専機構本部が行っている、諸外国のニーズを踏まえた日本型高専教育制度(KOSEN)の導入支援において、本校は、タイ高専プロジェクト推進校、モンゴル支援事業協力支援校を務めています。令和元(2019)年度から、タイからの学生の本科1年次から専攻科までの7年間の受け入れを開始しています。

この他にも、この10年で多くの国や地域の機関と協定を結び、世界との繋がりを深めてまいりました。中でも海外大学との編入学協定締結は国立高専初の試みとなりました。

本年、明石高専は全国の名門校を取り上げているテレビ番組で紹介されました。これは、これまでの取り組みや卒業生のみなさまのご活躍などが評価された結果であり、大変名誉なことであると考えています。しかし、光が当たるところには必ず影があるもので、本校でも入学を許可した学生のうち一部の方ではありますが、残念ながら卒業まで導くことができず途中で別の道に進んだひともおられます。そうした人達の中には、いわゆるギフテッドと呼ばれる先天的に顕著に高い知性や優れた記憶力を持ちながら、特定の分野が苦手なために学校を去らなければならなかった方もおられたと思います。

明石高専は、新たな時代に向けて、教育方針として「排除から配慮へ」を掲げ、多様な学生を受入れ、寄り添い、励まし、そして応援する豊かで成熟した日本社会に相応しい高専を目指して参ります。

今後とも一層のご支援ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

目次

この10年を振り返って

教務関係	4
学生関係	5
寮務関係	6
専攻科関係	7
情報メディアセンター	8
技術教育支援センター	10
テクノセンター	11
グローバルエデュケーションセンター	12
アクティブラーニングセンター	13
学生支援オフィス	14
イノベーションオフィス・学事調査室	15
事務部関係	17

写真で見る10年

施設・設備	18
高専生活(1)～(3)	19
対外的行事	22
課外活動(1)・(2)	23

各科の10年

一般科目	25
機械工学科	26
電気情報工学科	27
都市システム工学科	29
建築学科	30

卒業生の10年

機械工学科	
田崎 雄大	31
東條 裕也	31
電気情報工学科	
三木 浩之	32
多田 哲馬	32

都市システム工学科

田口 敦士	33
生田 麻実	33

建築学科

石田 雄太郎	34
西本 清里	34

専攻科

機械・電子システム工学専攻

萬井 公一	35
-------	----

建築・都市システム工学専攻

川原 知也	35
-------	----

課外活動の10年

近畿地区高専体育大会の記録	36
全国高専体育大会の記録	36
ロボコン	38
プロコン	38
デザコン	39
プレコン	39

同窓会の10年

学校組織・校務分担の10年

教員人事歴

施設・蔵書の10年

10年の年表

校舎写真・学生歌

編集後記

～この10年を振り返って～

教務関係

教務主事 森下 智博

経済的な成長が期待できず、先行き不透明な時代であって、一般社会人に求められる能力が大きく変わってきた。大学入学共通テストや中学校学習指導要領に「思考力・判断力・表現力」が明記されたことは象徴的である。もはや知識の量を問う時代ではなくなった。また、グローバル化もますます進んできている。語学力だけでなく、異文化への理解や多様性の理解、多文化共生の社会での協働力が必要とされている。

新時代のスキルを育成する科目の一つとして「防災リテラシー」を平成25(2013)年に開設した。兵庫県南部地震は平成7(1995)年である。大きな震災に見舞われ、そこから復興してきた経験が忘れられつつあった。平成23(2011)年に起こった東北の震災は、我々に使命感を与えた。震災はいずれまたやってくる。その時に備えなければならない。明石高専と仙台高専がモデル校指定を受け、高専の防災教育が始まった。「データサイエンス入門」と「データサイエンス演習」の開設は令和3(2021)年である。高等学校の学習指導要領が改定され、すべての高校生がデータサイエンスを学ぶことになった。いまや情報科学は一般教養である。高専で教えるデータサイエンスが普通高校と同じでは高専の優位性を活かさない。両科目では本校独自の内容が盛り込まれている。

平成26(2014)年のグローバル高専モデル校指定により、本校のグローバル教育が本格的に始まった。グローバル化対応の唯一の科目として平成27(2015)年に開設したのが「グローバルスタディーズ入門」である。実践的な教育は国際交流活動を通じて行ってきた。毎年、数十名を短期滞在の留学生として受け入れてきた。また、語学研修やボランティア活動などで多くの学生を海外に派遣してきた。それらの成果としてTOEICスコア5年生平均が500～550点にまで伸びている。特に優れた学生も育ててきており、すでに3名の学生が海外の大学への編入学を果たしている。

平成26(2014)年にはアクティブラーニングでもモデル校指定を受けている。知識教育から、協働力・自己成長力・問題解決力などの行動特性を育成する教育へと、大きく舵を切った。平成27(2015)年に「アクテ

ィブラーニング入門」を、平成28(2016)年には「Co+work」を開設した。後者は3学年全学科12クラス混同のチーム編成で行うプロジェクト型活動である。他に例を見ない授業形式であり、国内外から大きな注目を集め、高い評価を受けている。

教育課程の改編だけでなく、その実効性を高めるため、二つの大改革が実行された。一つは平成28(2016)年の学修単位科目の大幅採用である。教員が教える時間を削減し、学生個々の自己学習時間を増やす。行動特性のうち特に自己成長力や協働力の伸長を期待した。意図通りに学生が勉強してくれるのか不安であったが、実施6年が経過し、学生たちがこれまで以上に大きく成長していることを実感している。二つ目の大改革は令和4(2022)年に実施された中間試験期間の廃止である。定期試験は期末試験だけになる。試験の時だけ勉強するのは合格はとても無理であろう。日常的に予習・復習を行うことで、学習内容の理解・定着を図るとともに、主体性・自己管理能力・生涯学習力を培ってもらいたい。

各種規定の改定による学習環境整備を進めてきた。他学科科目の履修制限が緩和された。意欲的な学生には視野を広める機会となり、成績不振学生にとっては不合格科目の単位補填となり得る。原級留置となった場合、60点以上の科目は単位認定され、翌年に再度受講する必要がなくなった。時間的ゆとりをもち、得意科目に集中できる。さらには時間割の空きコマを活用して、上級学年科目を履修できるようになる。元のクラスメイトと一緒に実験や実習に取り組むことができる。同一学年2回の原級留置で退学になる規程が廃止された。これは留年生にとって大きな心的負荷になっていた。これらのことで少しずつでも単位修得をしていけば卒業できるようになる。さらには各学年の課程修了要件を緩和した。学習継続を諦める学生が減り、留年・退学者が減少することを期待している。

学生関係

学生主事 穂本 浩美

ついこの間、創立 50 周年記念を経験したと思っていましたが、早くも次の 10 年が過ぎ去り 60 周年記念を迎えることとなりました。この 10 年を振り返りながら原稿を書いています。今から 10 年ほど前にアメリカのカリフォルニア大学アーバイン校と学術交流協定を結んでいたときのことを思い出しました。現地には学生引率で 2 回行きましたが、さすがにアメリカは土地があるのでキャンパスが広大です。キャンパスの真ん中に大きな芝生広場があり、その周りに教室棟や研究棟、オフィスなどが並んでいます。それらを取り囲むように外周道路があり、その外に教職員用のタウンハウスや寮があります。明石高専にとってはかなり寂しい現実ですが、アーバイン校キャンパスの真ん中にある芝生広場に本校の敷地すべてがすっぽりと収まってしまいます。

この 10 年はその狭い空間を最大限に活かしてきた 10 年であったと言えるかもしれません。対外的に目を引く特徴は、グローバル化とアクティブラーニング推進でしょうか。グローバル化では、留学制度の新設や交流協定校の増加、外国人学生の受け入れ、国際交流プラザや国際寮の設置などがあげられます。アクティブラーニングでは Co+work をはじめ各授業でのグループワーク導入や主体的な学びの提案を行ってきました。そのような環境の中で学生たちは教育研究活動に勤しみ優秀な卒業生が数多く巣立っていったことはとても誇らしいことです。

課外活動で数々の賞を受賞してきたことも大きな成果です。毎年のように全国高専大会へ出場し継続的に上位入賞を果たす団体もあります。ロボットコンテストでは継続的に全国大会へ駒を進め、プログラミングコンテストにおいても結果を伴う積極的な参加が目立ちました。またデザインコンペティションでは常に秀でた賞を受賞し、英語プレゼンテーションコンテストにおいても全国大会で 1 位、2 位を受賞するまでになりました。この紙面には書ききれないほど多くのコンテストやプロジェクトがこの 10 年で生まれ、多くの学生が時間とエネルギーを投じて活躍してきました。しかしながらこの 10 年間の最後には新型コロナウイルス感染症が発生したため、学校活動の多くが制限さ

れ学生の皆さんにはずいぶん不自由な思いをさせてしまいました。同時に学校の危機管理の意識と能力を見つめ直す機会になったことも事実で、ここで学んだことは次の 10 年につながっていくものと思われます。

一方、残念なことです。SNS を利用した心ない書き込みなどが増えたのもこの 10 年です。これまでのような飲酒、喫煙といった学生指導が SNS で他者を誹謗中傷する行為へと姿を変えていきました。明石高専の狭い空間は物理的な狭さなのですが、成長途上の一部の学生たちはインターネット上に広がる無限空間も物理的スペースと捉え、そこでは何でも得られる、何でもできると思い、その結果他者を傷つけてしまうことがあります。技術は世の中を便利にするためと弱者を救うためにあると私は思っていますので、技術者として将来、人の役に立つ仕事につく学生の皆さんにはその真逆のことをしてほしくありません。

そんな学生たちの支援をより充実させる動きがこの 10 年間にはいくつかありました。多種多様な悩みを抱えた学生に手を差し伸べるため学生相談室が存在していますが、この 10 年で体制を充実させ学生支援ネットを広げる活動をしてきました。また担任制度にも大きな変化がありました。これまでは個々の担任が 40 名のクラス学生を見守るという限られた学生支援でしたが、狭い空間で学生支援を閉じてしまうのではなく、組織的に学生支援を充実させる目的でクラス経営担任団という組織が生まれました。さらにそのクラス経営担任団と学生相談室が、緩やかにつながる学生支援オフィスに発展したのが 60 周年を迎える前年である令和 3 (2021) 年度です。

明石高専はこれからも狭い空間をいっぱい活かした教育活動を行っていくこととなりますが、この先の 10 年で、社会のため、弱者のため、心優しい技術者をひとりでも多く輩出することができるよう、質の高い教育を行っていきたいと考えています。

寮務関係

寮務主事 平石 年弘

平成 24(2012)年から令和 3(2021)年の 10 年間の明石高専の学生寮の大きな変化と 10 年後令和 14(2032)年の希望のある未来予想を書いてみた。

1. 入寮希望者の増加

中学校卒業生の 1%が選ぶ少数派の高専ではあるが、近年インターネットで情報を得ようと思えば簡単に情報が得られるようになった。全国の高専で最寄り地受験制度が始まり、全国の高専から受験できるようになった。地元の高専であっても自宅なら通えないのなら全国の何処の高専に入学しても寮で暮らすことに変わりはない。明石高専がグローバル・モデル校、アクティブラーニング・推進校としての新たな取組の成果が表れ、優秀な学生が集まってきている。これらの状況が複合して下図のように県外からの受験者が増加し、必然的に入寮希望者が増加している。



2. 女子寮生の増加

15 年前に男子寮の 1 棟を女子寮に改築した頃は、定員を充足させるために半ば女子学生にお願いして入寮してもらっていた頃を思うと大きな変化である。今年度入学者の 30%が女子学生である。日本の工学分野で男女共同参画が進んで行く良い兆しだと言える。

3. 国際寮の建設



国際寮

平成 26(2014)年にグローバル・モデル推進校に指定されたこともあり、これまでに多くの短期留学生を受け入れてきた。写真の国際寮が令和 3(2021)年 10 月

より開寮した。留学生と日本人学生が交流スペースを共有して生活することを意図して設計されており、個室は狭いが交流スペースは広い。お互いが異文化を理解し合い、世界に広がる友情がここから生まれることを願っている。

4. 「大声挨拶」が無くなった

数年前まで上級生から下級生への大声での挨拶指導(強要)があった。コミュニケーションの一つとして挨拶が重要ではあるが、上下のヒエラルキーを保つために大声での挨拶が使われていた側面があった。「大声挨拶」は上下関係を維持するには都合が良いが、現在の日本社会ではパワーハラスメントの温床ともなる。200 人以上が共に生活する学生寮では、日常生活上の具体的問題を自主的かつ共同で解決するために寮生会がある。力による強制では無く、話し合いによる合意に基づく運営に一步近づいた。

5. 新型コロナウイルス感染症対策を行いながらの寮運営

令和 3(2021)年の第 5 波デルタ株までは、寮内での感染者は出なかったが、令和 4(2022)年 2 月の第 6 波オミクロン株では A 寮と国際寮で感染が広がった。個室の B 寮(女子寮)と C 寮(高学年寮)は感染者が出ても広がることは無かった。やはり、With コロナを考えると個室化と換気は重要である。

以上、近年の学生寮の出来事を概観した。10 年後の潮寮を想像してみる。

6. 10 年後令和 14(2032)年の潮寮

最も古い A 寮が建替えられ、定員が 400 名と増加している。感染症対策とプライバシー確保のために全寮個室化はされているが、交流スペースが充実し学生同士の交流が盛んになっている。学生寮に住むことのメリットは保護者にとっては経済的に安くかつ食事の心配も無い。学生にとっては学校に至近のため自由時間が課外活動に使い、多様な学生と交流できる。日本の出生数は減り続けており、10 年後の令和 14(2032)年の 15 歳人口が減ることは確定している。明石高専が入学希望者を日本中いや世界中から集めるには寮の増築が必要である。女子寮生は 100 名、留学生は 50 名に増加し、学生の多様性が今以上に担保されながら、寮生会による民主的な寮運営が行われており、LGBTQ(性的マイノリティ)の方への配慮もされている。

以上が 10 年後令和 14(2032)年の未来予想である。

専攻科関係

専攻科長 中西 寛

明石高専には、高等専門学校の高度化・学生の進路選択の幅を広げるニーズから、高専の準学士課程(本科)の卒業生を対象として、より高度な技術教育を行うことを目的として平成8(1996)年に、「機械・電子システム工学専攻」と「建築・都市システム工学専攻」の二つの専攻をもつ専攻科が設置された。現在、5つの専攻区分(平成27(2015)年度に電気電子工学、情報工学、土木工学、建築工学の区分で始まり、平成28(2016)年度に機械工学の区分が加わった。)において、大学改革支援・学位授与機構により、専攻科2年間に本科の4、5学年の2年間をあわせた4年間の単位積み上げ型の学士の学位授与が行われる特例適用専攻科が認定されている。この10年間の修了生の学位取得率は、99.6%である。特に特例適用専攻科の認定が揃った直近5年間は、修了生の全員が学士を取得するに至っている。

平成15(2003)年度から「技術者に必要な知識と能力」「社会の要求水準」などの観点から審査し、技術者教育水準の国際的同等性を担保するJABEE(日本技術者教育認定機構)の認定を受けた。認定プログラム「共生システム工学プログラム」の認定およびその継続に際して、JABEE基準に準拠したカリキュラム教育改革・改善を推進してきた。その後、海外大学との連携・提携等を経て教育のグローバル化、アクティブラーニングの推進が軌道に乗ったことを受け、明石高専独自の教育改革を柔軟に実施していくため平成28(2016)年にJABEE認定継続更新を取りやめることが決定された。在校生への配慮のため平成30(2018)年度の修了生を待って更新申請を取りやめた。

図1に、過去10年間の修了者数の推移を示す、前半5年間は定員の2倍を超す入学者を迎えていた年があった。機関別認証評価にて「過去5年間の修了者数が、定員の0.7~1.3倍」の基準が示され、平成30(2018)年に合格基準の見直しを行った。それによる改善がみられる。

表1に修了生の進路状況(人数)の推移を示す。年度により各専攻の傾向は大きくぶれる場合もあるが、概ね進学と就職はほぼ半々であり、学生個人が選択できる多様な進路の確保が行えている。

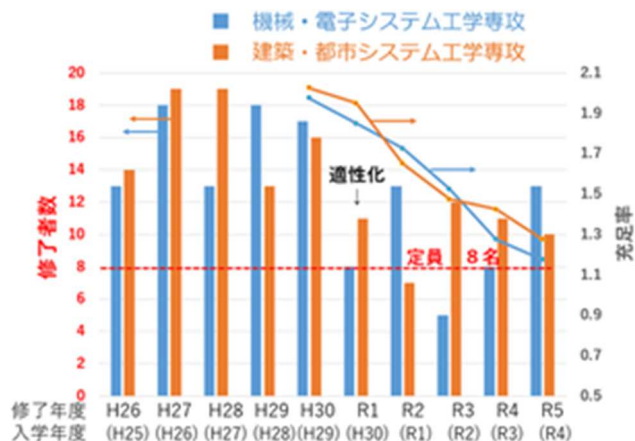


図1 修了者数(棒グラフ:左目盛り)と過去5年間平均の充足率(折れ線グラフ:右目盛り)

表1 修了生の進路状況の推移

年度	機械・電子システム工学専攻			建築・都市システム工学専攻			就職率	進学率
	就職	進学	その他	就職	進学	その他		
平成24	5	10	0	8	6	1	43.3%	53.3%
平成25	4	13	0	6	4	0	37.0%	63.0%
平成26	5	7	0	9	4	0	56.0%	44.0%
平成27	10	7	1	10	7	0	57.1%	40.0%
平成28	4	7	2	9	9	0	41.9%	51.6%
平成29	9	9	0	6	7	0	48.4%	51.6%
平成30	9	7	1	4	11	1	39.4%	54.5%
令和1	3	5	0	7	4	0	52.6%	47.4%
令和2	5	8	0	6	1	0	55.0%	45.0%
令和3	2	3	0	5	6	1	41.2%	52.9%

近年の新しい試みとして、令和2(2020)年度より専攻科ワークショップを開催している。第1回は「ディープラーニング超入門 —AI 事始め—」(令和2(2020)年1月23日)、第2回は、ロンドン大学からMichail Stamatakis博士を講師に迎え「触媒・材料科学の多階層計算機シミュレーションワークショップ」(令和2(2020)年3月3日~5日)を開催した。その後、新型コロナウイルス感染拡大のために開催を控えてきたが、令和4(2022)年度には、アントレプレナーシップを養成するワークショップを開催する予定である。アントレプレナーシップは起業家精神を意味するが、本ワークショップでは広義に捉え、学生自らがゼ

ロから事を成す精神・力量を育むことを目的としている。また、JABEE 認定を見据え導入した科目「創発ゼミナール」を、令和3(2021)年度からアクティブラーニングの更なる深化のため体制を刷新した。これまでは、専攻毎に個別に実施してきた科目であるが、2 専攻の異なる5つの分野(機械工学、電気電子工学、情報工学、土木工学、建築学)の学生の混成メンバーからなる班で ICT 活用の“ものづくり”を実践する PBL を行うこととした。各自の専攻分野のスキルを、異なる分野のメンバーとの共同作業の中で生かすことを模索・体験することにより、“より良く生きるための力”である認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図っている。

この10年、世界規模の気候変動、金融危機、パンデミック、自然災害、少子高齢化、安全保障の問題が顕在化してきた。既存の価値・システムが綻びを見せる混迷の時代を生き抜くために何が必要かを問い、教育改革を推進していかなければならない。

情報メディアセンター

情報メディアセンター長 井上 一成

明石高専情報メディアセンターは、正門に入って左手に進みますとすぐに見える二階建ての施設です。令和4(2022)年度は、情報メディアセンター図書館をはじめ、大きな改修工事を控えています。そのため令和4(2022)年度後期は施設を利用することができず、皆様にはご不便をお掛けしますこと、ご了承頂ければ幸いです。令和5(2023)年度からは敷設後の新しい設備で、より快適で安心・安全な ICT 教育環境を皆様に提供します。

1. 情報センター

明石高専ほか高等教育機関における情報教育環境について振り返ってみようと思います。21世紀初めに掲げられた e-JAPAN 政策は、社会インフラの整備や安い利用料金の設定など、わが国が世界最先端の IT (Information Technology) を利用できる国家を目指す戦略でした。この e-JAPAN 政策は、のちの「いつでも、どこでも、誰もが IT の恩恵を享受できるユビキタス社会 (u-JAPAN 政策) へと引き継がれ、今日の高度な IT 社会実現のための基盤を形成したと言えます。学校教育機関においてもまったく同じで、コンピュータ設備の学内導入が俄かに開始されました。平成22(2010)年以降、IT から ICT (Information Communication Technology) へと表題を改め、高速ネットワーク接続、無線 LAN 環境など様々な成長的な取込みへと進められました。明石高専創立記念誌からも、40周年でのコンピュータ導入、50周年での学内 LAN 構築といった ICT 化への成長、布石を知ることができます。60周年以降も更なる高度な情報教育環境を目指してゆきます。

さて近年では、情報通信そのものの高速化・高性能化に加えて、安心・安全な教育環境、また地域や街づくりとの連携など具体的な社会実装が議論されています。ICT の効率的利用や利便性の追求を超えて、誰もが繋がり、快適かつ安心・安全に使うことができるための仕組みづくりが加速しています。本校における ICT 利用も学内・学外含めて、これまでと違った取り組みが必要と感じています。

ICT 化は、業務効率の向上や多様な学び方、働き方を実現します。しかしながら一方でインターネット利

用は、第三者からの攻撃などセキュリティリスクが高まります。情報の漏洩や重大な事故になりかねないインシデントが報告されています。残念なことに、ICTによる脅威も飛躍的に高度化しており、各種攻撃から守ることは決して容易ではありません。加えて、意図しないまま加害者に加担してしまうなど複雑な事例に発展しています。

新型コロナウイルス感染拡大のため、令和2(2020)年度にオンライン授業を開始しました。導入には多くの方にご協力頂きました。講義配信のためのカメラ、マイクなど備品の需要も逼迫し、調達にも大変苦労しました。試行錯誤、手探りでの出航となったオンライン授業ですが、数々の困難を経験したおかげで、多くの知見を蓄積することができました。講義のあとでも学生が動画で授業を復習できるリアルタイムオンライン型とオンデマンド型の整備、また授業参加学生と自宅待機学生を同時並行で進めるハイブリッド型など、様々な需要、要求に対して柔軟に対応するオンラインサービスの提供が可能となりました。

授業に加えて、一般業務においてもメールやクラウド活用などオンライン需要が増加しました。その結果、メールの誤送信、また真偽が定かでない情報が学内で流布するなど、被害にあう事例も発生しました。インフォデミック、インフォメーション(情報)とパンデミック(世界的感染流行)が合わさった造語です。(エpidemic Epidemicを組み合わせたという説もある)高度情報化による新たな脅威は必定なのかもしれません。

このように本校をはじめ高等教育機関、さらに社会背景を鑑みて、情報メディアセンターでは、高度で快適なICT教育環境と同時に、危機に対する常日頃からの管理が重要と考えています。

令和3(2021)年度は、情報演習室に電子黒板を導入しました。また講師は自身のコンピュータから参加学生全員とリアルタイムで共有が可能な集中管理システムも導入しました。同時に危機管理として、学内のネットワークトラフィックは全てログとして記録しています。万一、外部から攻撃や学内への感染が発生した場合、教職員をはじめネットワーク利用者に対して、ネットワークから切り離すなど「すぐやる三箇条」を推し進めるとともに、追跡・解析が可能な機能(フォレンジック)を導入し、迅速な復旧に役立つしくみを整備し

ています。今後も快適、かつ安心・安全な情報教育環境の構築に尽力してまいります。

2. 図書館 (図書館長 荒川 裕紀 記)

図書館におけるこの10年は、30年前からの情報化対応、20年前からの本格的な情報化とネットワーク利用が大きく推進・発展していった過程を経て、情報化に関してはもはや日常となり、その中で運用が求められています。その流れのなか、平成24(2012)年7月、情報メディアセンター構想を視野に、運営主体である学生課図書係を学生課情報図書係に名称変更し、情報関係の業務を情報図書係に移し一元化することになり、平成26(2014)年4月に図書館と情報センターが統合され、情報メディアセンターとなりました。更に平成28(2016)年10月、事務組織改編により、情報図書係は情報図書チームに改称されました。図書館は情報メディアセンターという形で、オンラインでの情報と、12万冊に近い蔵書でもって、本校学生の知の創造に寄与しています。

図書館にとってこの10年における一番大きな出来事は、令和4(2022)年夏に起工され、令和5(2023)年4月完工予定の「図書館改修」となります。更なる情報化の拠点となるべく、開放的なエントランスを設け、100名以上が同時に参加可能な演習室が新設される予定です。

この60年間、多方面から収集された学術書や、昭和45(1970)年から「郷土資料センター」を目指し収集の始まった、県内でも有数の収集量を誇る郷土資料群などが、学生・教職員のみならず地域住民にまで利用可能としていたため、多くの人々の知の拠り所として機能してきたことは、特筆に値します。令和3(2021)年度には2,212冊の書籍が導入され、引き続きの図書資料の充実が図られています。

この様に学生教職員のみならず、地域にまで開かれた知の拠点であった図書館は、残念ながら令和2(2020)年初頭からの新型コロナウイルス蔓延に伴い、一時的な閉鎖を余儀なくされました。同年7月からは、学生・教職員のみが利用可能な状態で開館しています。令和5(2023)年4月の改修以降、感染状況が改善され次第、地域の方々への門戸も広げ、地域の中で生きる図書館として、今後も有機的に機能していくことが期待されます。

技術教育支援センター

技術教育支援センター長 渡部 守義

技術教育支援センターは、学校創設時から平成半ばまでの卒業生の皆様には馴染みのない組織であると思えます。本センターは技術専門職員及び技術職員の職務が、教育・研究の進展とともに高度化・専門化していることに対応するため技術的支援と専門的業務を円滑に効率的に行うことを目的に平成 14(2002)年度に設置されました。それまでは各学科で技術職員が実験実習に関する技術的な支援を行っていましたが、技術教育支援センター員となり、各部署からの業務申請を受けて、各学科の教育研究をはじめ、公開講座などの全学的な行事や実習工場での技術支援、情報処理教育センターの業務支援など多岐にわたって行っています。これにより学科の専門性に限られることなく、すべての教員と学生が、本センターの施設や設備を利用でき、常に技術的援助が得られる状態となっています。このため実験支援以外の、ロボコン、エコラン、デザコンをはじめとする多くのプロジェクトの支援も増えてきております。

本センターには学内共同利用施設である実習工場を配置しています。実習工場は創設以来、汎用工作機械を主体とする旋盤・立フライス盤・横フライス盤・形削盤などの普通工作機械を配備し、実習教育ならびに研究装置等の製作に広く利用してきました。また実習工場では、時代の変化に対応するため機器設備の更新を順次行っています。近年の状況を報告すると、令和 2(2020)年度にガイダンス機能によるパターン穴明け、輪郭加工などの機能を備えた NC 付フライス盤（静岡 鉄鋼社製 AN-SRN）を、令和 3(2021)年度には自動結付ワイヤ放電加工機（FANUC 社製 α -c600ic）を導入して、現有機器と合わせ 2 台体制を整備しました。これまで設置台数不足による工期の遅延がもたらす研究活動や各種プロジェクトへの障害が起きていましたが、新しく導入した機種には自動結成装置が搭載され、高効率な連続運転が可能となったことによりスムーズな部品製作が実現可能となっています。少しさかのぼりますが、平成 25(2013)年度には炭酸ガスレーザー加工機（AMADA 社製 Quattro）、多軸 CNC 旋盤（滝澤鉄工社製 TCN-2000Y）を導入しています。これらは本校では実習教育、ならびに研究活動、課外活動などに幅広く利用

し、最も稼働率が高い特殊工作機械であり、ロボコン、エコラン、デザコンなど様々なものづくりの場面で活用しています。

この 10 年で技術教育支援センターでのものづくり支援は非常に安全且つ効率的に実施できる事となり、教育研究活動に必要な各種の特色ある機能を備えた本センターが、各学科の教育研究活動のために有機的に機能しています。さらに実習工場の施設を利用し、人材育成事業として、工作機械の講習を開設し、機械加工について一定の技能を習得する機会を設けています。

現在、本センターはセンター長、副センター長、技術長及び 11 名の技術職員を第 1 技術班（機械・電気系）、第 2 技術班（建設系）、第 3 技術班（情報）に配置した組織で運営を行っています。今後も、高専教育における技術面を支える存在であり続けるよう努めていきたいと思えます。



NC 付フライス盤（令和 2(2020)年度導入）



ワイヤ放電加工機（令和 3(2021)年度導入）

テクノセンター

テクノセンター長 神田 佳一

教育・研究と並ぶ本校の使命である地域連携・地域貢献を担うため、前身となる「地域共同教育研究センター」が平成9(1997)年に設置されてから、25年が経過した。平成12(2000)年には専用施設が竣工し、名称を「テクノセンター」に改めたが、これまで、地域の企業・自治体・民間組織などの地域社会の発展に貢献するための様々な事業活動を行ってきた。平成24(2012)年度から10年間のテクノセンターの主な活動を振り返る。

1. 産学官連携の推進

産学官連携では、平成17(2005)年度から明石市との連携に向けた取り組みを開始して以降、平成18(2006)年度にみなと銀行、平成19(2007)年度に明石市、さらに平成23(2011)年度には加西市との間で連携協定を締結し、周辺都市との連携を図りつつ、人的・知的資源の交流、共同による調査研究及び技術教育を展開するための基盤づくりを進めている。また、平成25(2013)年度には、明石高専と地域企業・自治体等の地域産業界との連携・交流を深めるとともに、地域企業等相互の交流を深めることを目的に、兵庫県内外の有志が設立発起人となり、明石高専産学連携交流会が発足・設立された。テクノセンターと連携して兵庫県内外における産業技術の振興を図り、地域社会の発展に寄与することを目的に活動している。

2. 地域企業との共同研究・受託研究

平成20(2008)年度から高専機構の企業人材活用事業により採用された産学連携コーディネータを活用し、教員の研究シーズを広く企業に浸透させ、企業のニーズとマッチングさせることにより、それまで年間数件程度であった共同研究・受託研究を活性化してきた。直近5年間では共同研究・受託研究合わせて15件程度と安定している。近年では、水素酸化反応を用いた新たな触媒材料の開発、コロナ後の商店街の活性化に関する研究等、最新の学際的・実用的な研究開発が行われている。

3. 公開講座・出前授業

主として兵庫県下の小・中学生を対象として、公開講座及び出前授業を実施している。公開講座は全学科で年間20~30件、近隣の小・中学校、公民館等に出向

いて行う出前授業は年間10件程度であって、種々の工作実習や電池の仕組み、CADによる橋の設計、建築図面や模型の作成など、各学科の特徴を踏まえ工夫を凝らした実験・実習が行われている。これらの体験から明石高専を志望する中学生も多く、近年では県外からの参加者も増加している。

4. 一般市民への研修事業

一般市民のための学習プログラムとしては、センターの設立当初から隔月の第3金曜日に校内でイブニングセミナーを開催し、分かり易い技術的话题を提供して好評を得ていたが、参加者が魚住周辺の市民に限られていたことなどから、平成29(2017)年度から明石駅前新設されたあかし市民図書館に場所を移し、新たに「テクノカフェ」(写真-1)としてリニューアルした。地域防災プラットフォームの構築や明石城坤櫓のペーパークラフトの作成、大中遺跡での竪穴住居復元プロジェクトなど地域に密着した話題を市民に提供している。今後も一般市民や子供達のものづくりに対する興味と関心を高め、地域における身近な存在としてのテクノセンターを目指していきたい。



テクノカフェ(写真-1)

グローバルエデュケーションセンター

グローバルエデュケーションセンター長(令和3年度)
鍋島 康之

令和4(2022)年に60周年を迎え、50周年からこの10年間に高専の国際交流は飛躍的に進んだ。本校は全国の高専でも先駆的に国際交流を行っている高専である。このため、本校では平成27(2015)年に従来の国際交流センターからグローバルエデュケーションセンターに組織を変え、より広範囲の国際交流を目指している。残念なことに令和2(2020)年から始まった新型コロナウイルスの世界的な感染拡大により国際交流は停滞しているが、新型コロナウイルスの終焉後は以前よりも活発な国際交流が期待される。

1. 海外大学との交流・編入学協定

これまでに本校と学術交流協定を結んでいる大学・教育機関は21校あり、教員や学生の交流が盛んである。特に、サウサンプトン大学(英国)、クイーンズランド工科大学およびモナッシュ大学(オーストラリア)とは全国の高専では初めて編入学制度を整えている。本校を卒業した学生はこれらの大学に編入学することが可能であり、これまでに3名の学生がこの制度を利用して編入学している。また、協定校とは教員の派遣や受入が盛んであり、本校からは述べ15名の教職員が協定校で海外研修を行っている。

また、平成27(2015)年にはマラ工科大学(マレーシア)で国際シンポジウムであるISTS2015を本校が主幹して開催した。この国際シンポジウムでは従来の研究発表だけでなく、高専生とマレーシアの学生がワークショップを企画・運営した。

2. 学生の国際交流

「トビタテ!留学JAPAN 高校生コース」には第1期から現在までに本校から延べ33名の学生が採択されており、全国高専の中でも採択された学生数は突出している。また、Overseas Community Projectではシンガポールの学生とともに本校の学生がカンボジアでボランティア活動を行った。このプロジェクトは本校学生が海外でボランティア活動をする良い機会となっている。その他にも韓国ジョイントスタディツアーでは、北九州高専学生と一緒に韓国を訪問し、韓国文化や伝統を学んでいる。

また、ガジャマダ大学(インドネシア)、ホーチミン

市工科大学(ベトナム)、インド工科大学・カンブール校(インド)、香港IVEなど協定校を中心にインターンシップとして学生を多数派遣している。

その他にも、本校には学生間の国際交流や受け入れた留学生の支援を行う組織であるスチューデント・アンバサダー(SA)が活動しており、学生間の交流も盛んである。

表1 「トビタテ!留学JAPAN 高校生コース」採択者数

年	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
人数	7	12	2	5	4	採択中止	3

3. タイ政府派遣留学生・タイ高専短期研修

タイ王国チュラポーン王女サイエンスハイスクールからタイ政府派遣留学生を平成30(2018)年第1期から受け入れており、現在までに8名の学生が入学している。タイ政府派遣留学生は本科だけでなく専攻科までの7年間在籍する予定であり、これまでには無い新しい留学制度となっている。また、令和4(2022)年度は第6期最終選考に残った学生に対するサマーキャンプをタイにて実施する。また、タイ高専からは短期研修生19名を受け入れ、令和4(2022)年10月から約1ヶ月間本校で研修を行う。

4. 学生の語学研修

本校では、オークランド大学(ニュージーランド)で平成19(2007)年から語学研修を行ってきた。その他、カナダ、アメリカ、オーストラリア、フィリピンなどの高校や大学での語学研修を継続してきた。一方で、オンライン英会話のDMMと提携し、海外へ渡航せずに語学を学習する制度を設けており、令和3(2021)年度は140名を超える申し込みがあり、5年間の参加数は延べ590名を超えている。

アクティブラーニングセンター

アクティブラーニングセンター長(令和3年度)

水島 あかね

1. ALセンター設置の経緯

アクティブ・ラーニング(Active Learning/以下AL)とは、一般に能動的学修と訳され、学修者が自ら能動的に学びに向かうよう設計された教授・学習法のことをいう。日本では平成24(2012)年の中央教育審議会にてALという用語が登場し、平成26(2014)年に文部科学省の学習指導要領に盛り込まれ全国的に広まった。一方、明石高専でのAL推進の取り組みは比較的早く、ALセンターが設置されたのは平成25(2013)年のことである。当初は「地域特性を活かした地域貢献プロジェクトによる教育研究の質の向上」を目的とし、事務職員と技術職員、地域連携に取り組んでいた教員から構成されていた。しかし、設置後すぐに機構本部の要請を受け、本校はAL実践の西日本地区推進校(次世代型教育手法実践モデル構築事業)となった。これを受け、センター設置の目的は「課題解決型の能動的学修方法の開発及び実践のため」と改められた。現在の主な業務は1)教育方法の開発・実践、2)教育資源の開発・共有、教育環境の開発・運用、教育効果の評価、3)教育活動の点検・改善となっている。

2. 明石高専が目指すAL

本校では、目指すALの方向性を明確にするため、能動的な学修を「Competency(集団の中で自分の能力を発揮できる力)を養うAL」、主体的な学修を「Ability(一人で何かできる力)を養うAL」と定義し、この2つの能力を養う教育改革に着手した。通常、学修者がこれらの能力を身につけるには、他者との関係を伴う実践を通じた学修と教員による能動的教授法を通じた学修の両方が必要であるとされる。そこで本校ではPBL型科目の導入とそれを支える教員の教育力向上の2つを軸に据えることになった。そして、主体的な学びを促すため、共同学習センター(CLC)やコミュニティスペースなどの学習環境の整備を進めている(写真1)。



写真1 : CLC 整備(平成27(2015)年)

3. 新規科目の導入

新たな教育は学生にも意識改革が求められる。そこで入学直後の学生に対して主体的に学修する力と多様な人々との協働する力を養うことを目的に、平成27(2015)年度より1年前期にアクティブラーニングI(現AL入門)、1年後期にグローバルスタディーズ(現GS入門)を開講した。同時に学科学年横断型PBL科目の新規導入の検討のため、教員、技術職員と事務職員で構成するワーキンググループ「K-project」が立ち上がった。K-projectでの1年間70回を超える議論と授業のテストランを経て、学生、教員双方にとって大きなチャレンジとなる全学科2～4年を対象の通年(現在は前期・後期)必修科目Co+workが平成28(2016)年度に開講した(写真2)。その後、K-projectの業務はALセンターに移管され、センターを中心にCo+workの持続的な発展を目指した取り組みを進めている。



写真2 : Co+work(平成30(2018)年)

4. 教員FD(Faculty Development)研修の実施

急速な時代の変化により今日の教員に求められる役割もティーチングからコーチングへと変化している。AP採択を機に教員の意識改革を促し、「学生と共にチャレンジし成長しようとする姿勢」「プロジェクト・マネジメント能力」「ファシリテーション能力」「コーチング能力」を向上させるFDを開始した(写真3)。教育

工学の専門家による能動的教授法指導などの取り組みに加え、全教員が担当する Co+work も実践的 FD の場として位置づけられている。平成 30(2018)年度からは FD 委員会の機能も AL センターに組み込まれることになった。



写真3：教員FD(令和4(2022)年)

5. 今後のALセンター

当初、校長直轄の組織として設置された AL センターは、平成 30(2018)年度に教務主事団、翌年度はイノベーションオフィス、令和 4(2022)年度から再び教務主事団の管轄となった。今なお学内に AL 推進をどう位置づけるかの模索が続いている。令和 3(2021)年度にはキャリア教育の要素を取り入れた冊子「Co+work Book」(写真4)が完成し、能動的学修の実践も新たなステージに入ったといえる。これからの社会を生き抜く力を学生が身につけるためにはどうすれば良いか。教職員の共通理解を促し、培ってきた特色ある本校の強みを生かした教育環境の整備が今後の AL センターの課題である。

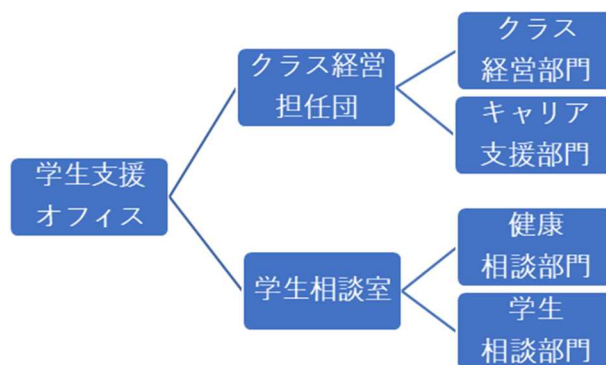


写真4：Co+work Book

学生支援オフィス

学生支援オフィス長 濱田 幸弘

学生支援オフィスは令和 3(2021)年度に設置され、下の図のような構成をしている。学生がもつ個人的諸問題についての相談活動や健康相談、キャリア支援、学習支援といった学生支援を充実させることを目的とする。本稿ではクラス経営担任団と学生相談室のそれぞれについて、この 10 年を振り返る。



クラス経営担任団が発足したのは平成 29(2017)年度である。それまで学級担任は「担任マニュアル」を参照し、同僚や学科長・一般科目長に相談しながらひとりでクラスを運営してきた。ところが近年、学級担任ひとりで対応するのが難しい案件や長期に及ぶ事案や合理的配慮などが増えてきている。そのようなことさらにチームで対応するためにクラス経営担任団が発足した。

クラス経営担任団は月に 1 回、担任会議を行う。情報共有シートが用意され、各学級担任は自分のクラスについて健康面(心と体)、生活面、成績、進路指導などについて、担任会議の前に情報共有シートに記入する。担任会議では情報共有シートをもとに学生の種々の情報を共有し、協議により意思決定をしたり、学生相談室から連絡・報告を受けたりする。

令和 2(2020)年度までクラス経営担任団に進路指導委員会と人権教育委員会が置かれていた。ただ、学生支援を主として担当する教員が学生相談室に属していたため、クラス経営担任団と学生相談室が類似するキャリア支援業務を行ったり、学生相談室での学習支援が有機的でなかったりした。それらの問題を解決するために学生支援オフィスが設置され、各部門に学生支援業務を整理した。

学生相談室は学生が抱える悩みを解決する方法を考

え、必要に応じて学級担任や他部署と連携しながら心の健康を維持するための心理的支援にあたってきた。より多くの学生が充実した生活を過ごせるために支援体制の拡充が求められる中、新型コロナウイルス感染症対策により生活様式の変化や行動制限が加わり、学生相談室の果たすべき役割がこれまでも増して重要となっている。

10年前の学生相談室は、学生相談室長(教員)、相談員(教員)、相談補助員(看護師)、スクールカウンセラーで組織され、心の健康を維持するための支援が行われていた。心と体は連動していることから、平成31(2019)年度には保健室で看護師が受けてきた健康相談を学生相談室の1つの柱と位置づけた。看護師は相談補助員から健康相談員として体の健康維持の支援にあたり、心理的支援が必要と考えられる場合はカウンセラーにつないでいる。

令和2(2020)年度には相談員として事務職員が加わったことで、学生相談室の事務作業や事務部との情報共有が効率化され、教員の相談員は本来果たすべき学生支援に専念できるようになった。そして令和3(2021)年度、学生相談室の組織が大きく変わり、学生相談室内に健康相談部門と学生相談部門を配置した。健康相談部門は、学生相談室で受けてきた健康相談と保健室業務全般を担当し、学生相談部門では心理的支援を担当する形となった。

学生相談室は月1回会議を開催しており、健康相談部門と学生相談部門の連携を図っている。学生支援体制の拡充のため、令和3(2021)年度から非常勤スクールカウンセラーを段階的に増員し、令和4(2022)年度は週4日学生相談室を開室し、学生の心理的支援にあたっていく。

イノベーションオフィス・学事調査室

学事調査室長 梶村 好宏

1. イノベーションオフィスの発足

イノベーションオフィスは、これからの社会を見据えた教育方針と戦略を立て、検討・試行・検証を行い、本校教育内容の充実と向上を図ることを使命として平成28(2016)年4月に設置された。令和3(2021)年度までの6年間の歩みを記す。イノベーションオフィスは、次の各号に掲げる業務をおこなう。(1)本校、教育改善・改革に関わる企画・戦略の立案・試行・検証・提言、(2)教育に関わる外部資金の獲得に向けた業務、(3)よりよい学びの場をつくるためのサポート。平成29(2017)年度から、広報委員会業務も担当となり、同年度に行われた組織改革として、各主事団が形成され、教務主事団に、アクティブラーニング(AL)、FDを管轄するALセンターが配置されたが、その後、平成30(2018)年4月1日から、イノベーションオフィスがALセンターと広報委員会を所掌することとなった。表1に歴代の長を示す。公務合理化のため、令和2(2020)年度には広報委員会は専攻科長団に配置された。

表1 歴代のイノベーションオフィス長

平成28年4月～平成30年3月	平石 年弘
平成30年4月～平成31年3月	大向 雅人
平成31年4月～令和2年3月	大塚 毅彦
令和2年4月～令和4年3月	梶村 好宏

2. 教育改善・改革に関わる企画・戦略

平成29(2017)年度に採択された高専4.0イニシアティブ事業では、入学から卒業まで一貫したイノベーション人材の育成として、推薦入試改革としてこれまでの個別面接から4名1チームのグループワークの導入が計画された。平成31(2019)年度入学者の推薦入試へのグループワークの導入のため、イノベーションオフィスが主導し、実施内容の企画、検討、運営を行った。平成31(2019)年度、令和2(2020)年度入学者には、受験者4名を1チームとしたグループワークを実施し、令和3(2021)年度入学者については、COVID-19による緊急事態宣言発令によりグループワークは実施せず、内申点での評価となった。令和4(2022)年度入学者は、5名1チームとして、グループワークを行った。令和3(2021)年度に「正しく読む力」を、学生自身および教員が適切に把握し、現状を踏まえた学修活動、つま

り、つまりき部分に留意し、不足しているスキルや知識を補うことを行うことを目的として、RST(リーディングスキルテスト)の実施を4年生全員に実施した。令和3(2021)年6月には、KDDI株式会社との「イノベーション人財を育成する包括連携協定」の締結が行われ、KDDI社員の方に学内の教育アドバイザーとして就任いただき、学内に常駐いただきながら授業やワークショップ、セミナーの開催などを通じた教育活動が推進された。

3. よりよい学びの場をつくるためのサポート

イノベーションオフィスは、教育改善・改革に関わる企画・戦略の立案やよりよい学びの場をつくるためのサポートを行うため、プロジェクトチームを作ることができる。令和2(2020)年度、情報教育の強化のための科目検討プロジェクトチームを組織し、社会背景、ニーズに応じた情報教育カリキュラムを整えることを目的として、初級レベルのAI・数理データサイエンスの知識と技能を習得するための新科目「データサイエンス入門・演習」を全学科の1年生の必修科目として新設した。令和3(2021)年1月には、学内のICT環境の調査を踏まえた整備方針を検討するICT環境検討プロジェクトチームを作り、ハード、ソフトの面から学内のICT環境の整備の提案を行った。その結果、令和4(2022)年度入学生からBYOD(Bring Your Own Device)を導入することとなった。令和3(2021)年度、キャンパスマスタープラン2016を改訂するため、キャンパスマスタープラン検討プロジェクトを立ち上げ、施設・環境マネジメント委員会に引き継いでキャンパスマスタープラン2021が完成した。他に、学生ポータルサイト検討プロジェクトを組織して、Microsoft365上に学生向けの情報発信サイトとして学生ポータルサイトを作った。

4. 外部資金獲得業務

イノベーションオフィスの業務には教育に関わる外部資金の獲得に向けた業務がある。令和2(2020)年度、高専発!「Society5.0型未来技術人財」育成事業として、COMPASS5.0次世代基盤技術教育のカリキュラム化と特色の伸長・深化について応募したが採択に至らなかった。同年度、三菱みらい育成財団の教育プログラム助成に「3学年4学科横断型 工学実装教育プログラム」として応募し、年間200万円×3年間の採択を得た。主として3学年4学科横断型PBL科目である

Co+workの活動の支援を受けている。令和3(2021)年には、文部科学省が1月に募集した「デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン」に「超デジタル社会でグローバルに共創できる先端的技術者教育の推進」として応募したが採択には至らなかった。令和4(2022)年1月に文部科学省の「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」に「建設DXをけん引する次世代型エンジニアの育成」として応募し、採択された。令和5(2023)年度のカリキュラムに導入する実験・実習科目を、デジタルを活用して高度化する内容で、1.1億円の予算を得た。

5. イノベーションオフィスから学事調査室へ

令和4(2022)年度、イノベーションオフィスを発展的に改組し、学事調査室が新たに発足した。この教員・職員の協働体制をとる新しい組織は、国内外の教育情勢、国の教育施策、産業界の要請、地域環境等を調査し、将来計画並びに学校の行動機軸を立案することを目的としている。また、学校活動の内部質保証並びに教職員の資質向上にかかる研修の計画立案及び点検・改善業務を担う。

事務部関係

事務部長 稲垣 幸三

この10年間で特筆すべき事として、新型コロナウイルス感染症への対応が挙げられる。本校では令和2(2020)年2月に「新型コロナウイルス感染症に関する危機対策本部」を設置、「学校における新型コロナウイルス感染症対策基本方針」を策定した。同年5月から遠隔授業を実施、前述方針に基づき感染症対策を行い同年7月に対面授業を再開した。

様々なイベントを抑制しなければいけない状況が徐々に緩和されつつあるが、まだ以前の生活に戻ったとは言えない。学生が安心・安全に、充実した生活が送れるよう、引き続き全力で取り組んでいく所存である。

1. 定員及び人員構成

平成24(2012)年度の職員定員は教育職員66名、事務系職員40名の106名が数次の定員削減の結果、令和3(2021)年度現在、教育職員60名、事務系職員40名の100名となっている。

人員構成については、高専機構の掲げる男女協同参画行動計画に基づき、女性教員比率の向上に向け、本校も真摯に取り組むこととしている。平成24(2012)年度は教育職員65名のうち女性は7名で女性比率11%、事務系職員40名のうち女性は12名で30%であったが、令和3(2021)年度は教育職員60名のうち女性は9名では15%であり、事務系職員37名のうち女性は11名で30%であった。この10年間で事務系女性比率は変化していないが、教育職員の4ポイントの増は女性教員の積極的採用策が功を奏しているといえる。また神戸大学との人事交流については平成24(2012)年度では人事交流者10名で交流者比率25%が、令和3(2021)年度では人事交流者が0名となっている。これは交流者に頼らない安定した人事計画の達成を目指した直接採用や他高専等との人事交流が起因している。

2. 組織

平成28(2016)年10月、育児休業や育児短時間労働を取得出来る環境を整え、また状況に応じた業務分担の変更が容易となり、また、課題等にスピーディかつ柔軟に対応できる組織へとするため、事務部における系の統合を行った。このことにより、総務課では6係から3チームとなり、学生課では5係から2チームと

なった。

3. 施設

本校は、敷地総面積74,790㎡、建物総延面積28,900㎡を有しているが、都市型高専ということもあり、交通至便という点では、全国高専の中でも筆頭に位置づけられるが、敷地総面積が最も狭いという特筆も有している。キャンパスマスタープランにおいても、現有の敷地面積の中での施設の有効活用の観点から、低層建物を統合し高層化する計画となっている。近年では、平成25(2013)年度寄宿舎C寮の改修、平成26(2014)年度情報メディアセンター竣工、平成27(2015)年度協同学習センター竣工及び国際交流プラザ竣工、平成28(2016)年度福利施設改修、平成30(2018)年度寄宿舎A寮及び中央棟の改修、令和3(2021)年度国際寮竣工など学生サービス機能の充実と国際化に対応した施設充実を行った。

4. 外部資金

平成24(2012)年度については、科学研究費補助金では基盤研究(C)6件12,090千円、若手研究(B)7件9,490千円、奨励研究1件600千円の計17件25,170千円であった。受託研究については7件6,305千円、共同研究については8件3,086千円であった。

令和3(2021)年度については、科学研究費補助金では基盤研究(C)7件7,670千円、若手研究3件2,470千円の計10件10,140千円であり、受託研究については7件13,103千円、共同研究については9件7,141千円であり、科学研究費補助金の採択は低下しているものの受託研究、共同研究については着実に上昇している。

また、文部科学省の事業については、平成26(2014)年度に大学教育再生加速プログラム【テーマI】として「アクティブ・ラーニング」が採択され平成31(2019)年度まで実施された。

国立高等専門学校機構の事業としては、平成26(2014)年度グローバル高専モデル事業、アクティブ・ラーニングモデル事業、平成29(2017)年度KOSEN4.0イニシアティブ事業「入学から卒業まで一貫したイノベーション人材の育成」平成30(2018)年度「海外教育機関との協働によるグローバルイノベーション人材育成プログラムの構築」が採択され、それぞれ成果をあげており、本校のグローバル化やアクティブ・ラーニングの推進を加速させるものであった。

～写真で見る10年～

施設・設備



インフラ総合実験棟



総合的河川流実験室



壁掛型太陽電池モジュール



国際交流プラザ 入口ホール



正門付近



寄宿舍A寮 交流スペース

高専生活（1）



入学式



入学式



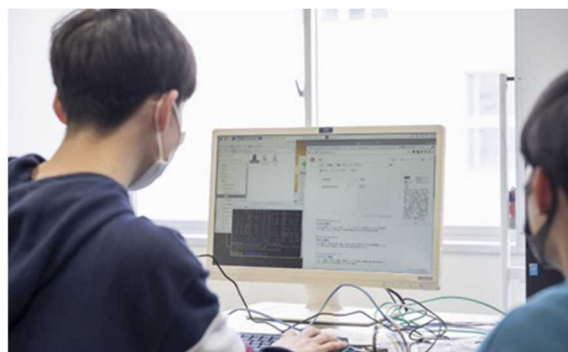
Co+work



授業風景（一般科目）



授業風景（機械工学科）



授業風景（電気情報工学科）



授業風景（都市システム工学科）



授業風景（建築学科）

高専生活（2）



1年生合宿研修



1年生合宿研修



寮防災訓練



新入寮生歓迎会



寮球技大会



寮球技大会



短期留学生による習字体験



専攻科特別研究中間発表会

高専生活（3）



スポーツ大会



スポーツ大会



高専祭



高専祭



サッカー大会



サッカー大会



卒業式



卒業式

対外的行事



オープンキャンパス



公開講座



明石地区ホタル保存プロジェクト



ため池の生物多様性保全プロジェクト



技術講演会



まるごと高専体験!

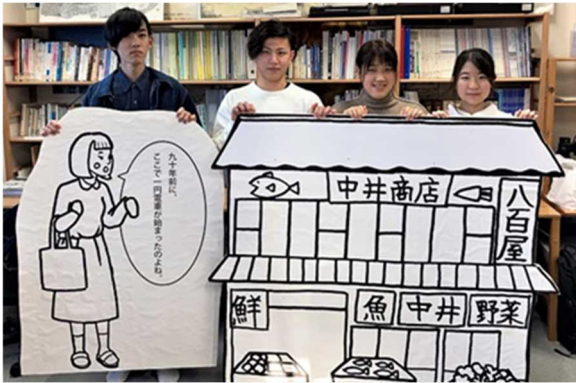


モナッシュ大学編入学協定調印式



フィリピンノーマル大学との覚書調印式

課外活動（1）



全国高専デザインコンペティション



全国高専プログラミングコンテスト



全国高専ロボットコンテスト



全国高専英語プレゼンテーションコンテスト



語学研修



語学研修



Overseas Community Project



野球部フィリピン遠征

課外活動（2）



陸上部



剣道部



ハンドボール部



柔道部



バレーボール部



テニス部



女子バスケットボール部



サッカー部

～各科の10年～

一般科目

自然科学系長(令和3年度) 高田 功

令和3(2021)年度から、人文科学系・自然科学系に分かれ、公務分担も各学科軸に分かれた上で決めることになった。平成24(2012)年度から令和3(2021)年度までの変遷を教科ごとに記す。

1. 国語(善塔 記)

平成27(2015)年度まで本科1～4年に対し必修通年科目(国語Ⅰ～Ⅳ)、また半期選択科目「国語表現概論」(5年)、「国語表現法」(専攻科2年)。平成28(2016)年度から国語Ⅲ・国語Ⅳを半期科目に変更。プレゼン・アカデミックライティングの向上をはかる国語Ⅳ、国語表現概論・国語表現法は、学生の能力が向上、当初の目的をほぼ達成。今後は一般教養と総合力を効率的に増大させるため、履修年度の繰り下げ、リーディング科目の新設等を計画。教員の異動は、仁木教員退職(令和2(2020)年3月。京都府立大学文学部へ)、同年9月、黒田教員着任、令和4(2022)年3月、黒田教員退職(福井大学へ)。

2. 地理歴史・公民(荒川 記)

平成31(2019)年度より、「グローバルスタディーズ入門」が担当科目に追加。令和3(2021)年度入学生より、「歴史」(1年)と「公共」(1年)が新設。専攻科では、令和3(2021)年度より「グローバルスタディーズ」が新設。履修科目数の減少があるが、情勢の変化も踏まえ、科目・教授内容の変革に務めている。教員の異動については、平成28(2016)年9月、政治経済・石田教員退職(宮城大学へ)、後任に平成29(2017)年4月荒川教員着任。令和2(2020)年3月、政治経済・本間教員退職(大阪成蹊大学へ)、後任に令和3(2021)年4月黒杭教員着任。

3. 数学(高田 記)

平成28(2016)年度から授業科目名を「数学ⅠA、数学ⅠB、数学ⅡA、数学ⅡB、数学ⅢA、数学ⅢB」に変更し、さらに数学ⅢAは学修単位科目に変更した。教員の異動については、平成27(2015)年3月に高野教員退職(香川大学へ)。同年4月、武田教員と長尾教員着任。平成28(2016)年度人事交流制度により和歌山高専から平岡教員が着任。令和元(2019)年3月に武田教員退職。

4. 理科(武内 記)

平成28(2016)年度入学生よりMCC(モデルコアカリキュラム)準拠のため物理・化学・生物を整理し、「サイエンスⅠ、サイエンスⅡA、サイエンスⅡB、サイエンスⅢA、サイエンスⅢB」に改編。学習到達度試験に代わり平成30(2018)年度からCBTに参加し、学生の物理・化学分野の受検をはじめ問題作成や問題レビューを開始。教員の異動については、平成27(2015)年度に人事交流制度により武内教員が奈良高専に着任、同年度末に倉光教員が定年退職に、平成30(2018)年度から令和3(2021)年度に人事交流制度により小野教員が仙台高専から着任。

5. 体育(後藤 記)

平成29(2017)年、長年に亘り本校の教育発展に尽力された松下教員の退職に伴い、小林教員を採用。学生にはより能動的な取り組みを求め、授業の仕組みや雰囲気作りも大幅に変えてきた。また、体育科教員もグローバル事業に積極的に参加。学生たちとカンボジアに入り、ボランティア活動に情熱を燃やしている。さらに、デ・ラ・サール大学付属高校(フィリピン)とのスポーツ交流を立ち上げ、野球部でのフィリピン遠征試合などの交流も開始。今後も学生たちのニーズに応えられるよう努力していきたい。

6. 英語(井上 記)

平成26(2014)年からTOEICを第5学年全員受験とし、卒業時の英語能力を測る取り組みを開始した。平成27(2015)年からグローバル高専事業により英語多読書の購入を開始し、授業外での英語学習に対する取り組みを行っている。教員の異動については、平成26(2014)年、前原教員退職(武庫川女子大学へ)、後任に飯島教員が松江高専から赴任。平成29(2017)年、飯島教員退職(群馬大学へ)。平成29(2017)・30(2018)年度人事交流制度により水野教員が香川高専から赴任。平成30(2018)年に北川教員が着任。平成31(2019)年、水野教員定年退職(嘱託准教授へ)。令和2(2020)年、松田教員定年退職(特任教授へ)。令和3(2021)年、水野教員退職。令和4(2022)年、松田教員退職。

機械工学科

機械工学科長(令和3年度) 加藤 隆弘

この10年においては、学校としてグローバル教育、アクティブラーニングが推進され、学科においても、これらに対応すべくカリキュラム変更等を実施した。また、最後の2年間は新型コロナウイルス感染症拡大防止対応のため、授業スタイルが変わる中、各教員の創意工夫が大いに発揮された。

1. 教育・カリキュラム

海外の大学への長期留学の際に、本校での取得単位を有効にするために、学科すべての科目において、通年科目を分割して半期開講とした。特に、実習においては、これまで1テーマを4回連続での実施が、2回を前期後期に分割することになり、修得度が心配されたが、担当教員・技術職員の工夫で、問題なく実施できたことは喜ばしい。

アクティブラーニング導入の一環として、Co+workの開講に伴い、専門科目において、多くの科目が学修単位となった。Co+workにおいては、ものづくりがテーマとなると、機械工学科の学生が担う役割が多く活躍しているようである。また、他学科の学生が実習工場で作業する姿もみられ、今後、実習工場を利用する機会が増えればと思う。専門科目のアクティブラーニングの取組は1学年での機械工学実習でのクレーンコンテスト、4年の生産総合実習のチームでの製作活動が挙げられる。

実習工場にレーザ加工機、NCフライス盤等の工作機械が導入されことより、これまで実施できなかった、レーザ加工を取り入れた塑性加工やNCフライスのNC機能を利用したポケット加工など、実習における新たな課題設定が可能となった。

また、長らく導入できなかった3次元CAD教育は、1年次の工作実習、3年次の工学実験でのFEM解析、更に、4年次の工作実習では、3次元CADによる設計、FEM解析から3Dプリンターによる製品の製作へと発展している。

製造業のデジタル化が進む中、教育プログラムの更なる変革が必要である。

2. 学生の活動

ロボットコンテストは、機械工学科の学生が活躍する場であり、近年は技術力の向上により、全国大会出

場の常連校となった。平成24(2012)年には本校主幹でCADコンテストを開催し、平成26(2014)年の3次元デジタル設計造形コンテストでは審査員特別賞を受賞した。また、エコランプロジェクトを立ち上げ、「ホンダエコマイレージチャレンジ」に毎年参戦し、入賞をしている他、平成24(2012)年には、飛行ロボットコンテストにも参加し入賞している。これ以外にも、各種コンテスト等へ積極的に参加し、勉強だけでなく、各方面で活躍する学生が増えている。

卒業後の進路としては、就職が半数程度となる年も稀にあるが、平均して65%程度が進学している。近年の進学先としては、これまで進学実績のなかった地方国立大学への進学や令和3(2021)年には海外の大学への編入学もあり、進学先も多様になった。

5年生の見学旅行先としては、これまで国内のみであったが、平成24(2012)年、28(2016)年には台湾が先行先となり、本学科も他学科のように海外展開が必要かも知れない。

3. 設備

長年使用されてきた大型風洞が更新され、小型化、高性能化され、学内の実験、研究のみならず、オープンキャンパス、公開講座で大いに活用されている。また、材料疲労試験機、引張試験機、デジタル顕微鏡も新規導入された。

4. 新型コロナウイルス感染症の影響

令和2(2020)年の新型コロナウイルス感染症拡大のため、約1か月休講を経て行った1か月間のオンライン授業では、各教員が学生の理解向上に工夫する中、実習においても、一部の課題のオンライン化と、対面授業再開後のフォロー実習の追加より習得内容を減らすことなく実施できた。実習工場の技術職員の尽力には大いに感謝したい。現在も就職試験において、オンライン面談が採用されているように、多くの企業でものづくりの方式が変化している。このような状況変化にも対応できる技術者育成の使命を改めて認識させられた。

5. 教員の動き

平成24(2012)年に松塚教員が着任。同年に史教員が米国ネバダ大学に在外研究員派遣。平成25(2013)年に大森教員が人事交流で東京高専に1年間派遣。平成26(2014)年には藤原教員が豊橋技術科大学教員グローバル人材育成力強化プログラムにより米国に派遣。平

成 31 (2019)年に岩野教員サウサンプトン大学に在外
研究員派遣、令和2 (2020)、令和3 (2021)年には藤原
教員がタイ高専プロジェクト派遣。令和3 (2021)年に
大西教員が再雇用で徳山高専より着任。令和3 (2021)
年度末に岩野教員が福井工業大学に転出され、11名と
なり、従来通りの専門科目の授業の展開にはなお一層
の工夫が必要となろう。



機械工学科特別講演(令和3 (2021)年8月)
「レーシングカー復活プロジェクト」

電気情報工学科

電気情報工学科長(令和3年度) 周山 大慶

この10年、情報技術(IT)や人工知能(AI)が飛躍的に進歩したことにより、情報化技術は、電気電子分野をはじめとして様々な分野に融合し、あらゆる産業に広がっている。この高度情報化社会の時代を生き抜くことのできる優れた人材の育成が不可欠となっている。このような状況のなか、令和2 (2020)年度に情報系教員2人を採用し、令和3 (2021)年度に第1学年全学科の必修科目として情報化教育「データサイエンス入門・演習」が導入された。現在、教授7、准教授3、助教1の計11名で学科の教育と運営に当たっている。

また、第4、5学年を「電気電子工学コース」と「情報工学コース」に分けるコース制を実施しているが、近年「情報工学コース」の人気の高くなっていることに対応するため、少なかった「情報工学コース」の履修コース定員を令和3 (2021)年度に在籍学生の半数に改正し、電気電子と情報の間でよりバランスの取れた履修コースとした。

第4学年のインターンシップは単位として認定されることもあり、参加する学生は多かったが、この2年間はコロナ感染対策の影響により希望者は少なく、令和2 (2020)年度は5人、令和3 (2021)年度は11人とどまり、ほとんどオンラインでの実施であった。

第5学年見学旅行では、台湾、グアムといった海外が主流であったが、最近は北海道や九州などの国内旅行となっている。

1. 卒業生数と進路

表にここ10年間の卒業生数と進路を示す。主な進学先(学生数)は、本校専攻科(63)のほか、北大(5)、東北大(8)、筑波大(13)、東大(20)、長岡技科大(10)、豊橋技科大(27)、京大(7)、阪大(41)、神大(34)、岡山大(10)などである。年度によるバラツキはあるが、約8割の卒業生が進学している。就職では、企業の求人社数は以前より増えており、最近は560社前後で推移している。多くの企業からの強い求人要望にも関係し、全員が早い時期に内定しており、進学希望から就職希望に切り替えた学生もほぼ全員内定が決まっている。主な就職先は、関西電力(3)、三菱電機通信機製作所・姫路製作所(3)、西日本旅客鉄道(2)、出光興産(2)、NTTデータ・SBC(2)、任天堂(2)、SUBARU、きんでん、

パナソニックAVCネットワークス、富士通周辺機、ネスレ日本、神戸市役所(2)、明石市役所などである。

卒業年度(学生数)	大学進学	専攻科進学	就職	その他
平成 24 (38)	23	6	8	1
平成 25 (42)	24	7	9	2
平成 26 (37)	22	7	8	0
平成 27 (40)	22	8	8	2
平成 28 (43)	29	8	5	1
平成 29 (43)	26	6	10	1
平成 30 (40)	23	7	8	2
平成 31 / 令和 1 (35)	27	4	3	1
令和 2 (42)	30	2	8	2
令和 3 (42)	28	8	6	0
計 (402)	254	63	73	12

2. 設備更新

学科の情報処理教育用計算機システムは、現在段階的に更新されている。最近の主な設備として、制御機器PLCセット(令和元(2019)年)、高度機械制御学習システムと大容量高速並列計算システム(平成 26(2014)年)、太陽光発電教育システムと組込システム実験装置(平成 25(2013)年)などが導入され、研究および学生実験などの教育に大いに活用されている。

3. 公開講座・オープンキャンパス・地域貢献

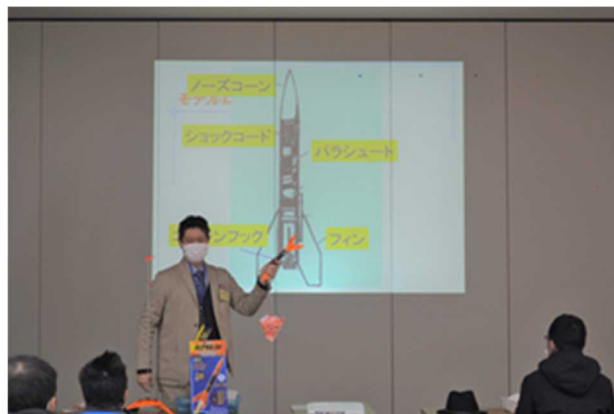
最近では小中学生と保護者を対象に「マイコンを使ってロボットカー」、「micro:bit でプログラミング」、「Ozobot 体験」、「C 言語で素数判定プログラム」、「AMラジオ製作」と「モデルロケット」などユニークで興味深い内容の講座を実施している。また毎年夏には、中学生向けのオープンキャンパスの一環として、「電子回路製作」をはじめ、「web ページ作成」、「micro:bit でプログラミング」、「マイコンプログラミング体験」と「パソコンの中身をのぞいてみよう」など今の時代に即した体験講座も行なっている。

さらに、小学校へ出張講座としてプログラミング体験授業、社会人対象とする人材育成事業として「シーケンス制御の入門コース」などを実施している。

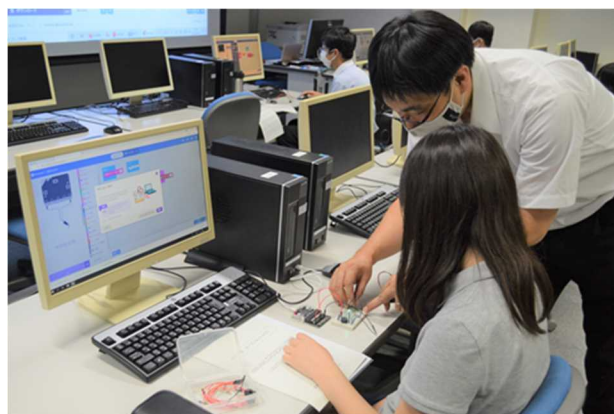
そのほかにも様々な地域主催事業への参加も積極的に行い、地域貢献の拡充を図っている。

4. 教員の動向

平成 24(2012)年 1 月梶村教員、平成 25(2013)年 4 月周山教員が着任。平成 28(2016)年 4 月同居支援プログラムで奈良高専より井上教員、香川高専より奥村教員が着任。平成 29(2017)年 3 月堤教員が定年退職。平成 30(2018)年 3 月成枝教員が退職、三重大学に転出、奥村教員が退職、大手前大学に転出。令和元(2019)年 9 月佐村教員が退職。令和 2(2020)年 4 月新居浜高専より同居支援プログラムで平野教員、鳥羽商船高専より土田教員、高知高専より野村教員が着任。令和 3(2021)年 3 月堀教員が退職、神戸女子短期大学に転出。令和 4(2022)年 3 月中井教員が定年退職、同年 4 月から再雇用。現在、教授 7、准教授 3、助教 1 の計 11 名で学科の教育と運営に当たっている。



公開講座(モデルロケット)



オープンキャンパス(micro:bit でプログラミング)

都市システム工学科

都市システム工学科長 神田 佳一

平成 24(2012)年は東北地方を襲った太平洋沖地震から1年がたち、ようやく震災からの復旧・復興事業が始まりつつあったところである。その後も平成 28(2016)年の熊本地震や毎年のように発生する豪雨・暴風による洪水災害や土砂災害が頻発している。また、ここ数年は COVID-19 によるコロナ禍にあって、世の中の全ての活動に制限が加えられ、経済も低迷している。このような中で快適で安心・安全な社会を構築することを目的とする都市システム工学科の役割と責任は、益々大きなものになってきていると言える。ここでは、平成 24(2012)年度からの 10 年間の都市システム工学科の動向を振り返りながら、幾多の危機を乗り越え、豊かな社会の実現に向けた取り組みと将来に向けた展望を考える。

1. 実験施設の新設・更新

平成 25(2013)年度には、大型実験施設として学科棟の南側に、大型平面土槽と 1 次元及び平面 2 次元の造波実験水槽を有するインフラ総合防災実験棟が、また水理実験室の西側にも無壁舎ではあるが、3本の大型開水路実験装置を備えた総合的河川流実験室が新設された。さらに、専攻科棟の耐震構造実験室には載荷力 2000kN のマルチ先端構造材料試験システムが更新された。他高専・他大学をも凌ぐこれらの最先端の実験施設は、路盤構造と最適転圧法の開発、河川合流部や河口部での河床変動とその制御、新しい建設材料の強度特性の評価等をテーマとする卒業研究や専攻科特別研究、企業等との共同研究の中で教育・研究に多に活用されている。

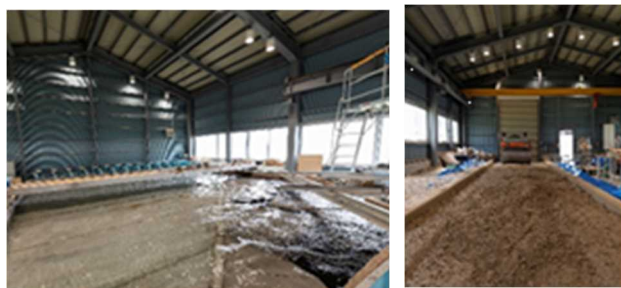


図1 平面水槽と大型土槽(インフラ総合防災実験棟)

2. 教員の動向

平成 24(2012)年度から令和 3(2021)年度までの教職員の動向を表1に示す。ここ 10 年間での退任が9名(教員7名、技術職員2名)、採用が7名(教員7名、

技術職員2名)であり、現員は令和 4(2022)年度に着任された大城雄希助教を含めて教員9名、技術職員2名となっている。

表1 教職員の動向

	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	職位	
教員	友久誠司	退										
	大橋健一	退										
	櫻 和秀				退						教授	
	神田佳一										教授	
	江口忠臣										教授	
	網島康之										教授	
	石丸和宏										退	
	渡部守義											教授
	武田宇浦											准教授
	石内鉄平						退					
	稲橋真哉		新			退						
	三好崇夫		新									准教授
	中村文則		新		退							
	石松一仁							新				講師
生田麻実								新			助教	
技術職員	内藤永秀	退										
	吉小路祐介										技術長	
	生田麻実		新									
	山本泰之										技術員	

3. 卒業生の進路状況

表2は 10 年間の都市システム工学科の卒業生の進路別の人数を示したものである。就職と進学割合はかなり変動しており、平成 27(2015)年度及び平成 30(2018)年度は就職と進学がほぼ同数であるが、逆に平成 24(2012)～25(2013)年度及び平成 28(2016)年度は進学率が70%程度である。令和になってからは、就職40%、進学60%程度と安定している。専攻科への進学者は一時期10名を超えていたが、平成 29(2017)年度以降は8名程度で推移している。

一方、入学者の志願倍率は第2・第3志望で合格した者を含めるとこの10年間では平均約1.4倍となっている。

表2 卒業生の進路

	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	
就職	公務員	1	2	2	2	1	1	4	2	2	3
	民間企業	7	10	12	17	7	15	15	13	15	9
	その他	1	1	0	1	2	1	1	1	1	3
	合計	9	13	14	20	10	17	20	16	18	15
	割合%	29	31	36	50	26	41	49	41	46	37
進学	大学編入学	13	15	11	12	17	16	13	15	14	18
	専攻科	9	14	14	8	12	8	8	8	7	8
	合計	22	29	25	20	29	24	21	23	21	26
	割合%	71	69	64	50	74	59	51	59	54	63

4. カリキュラムの改訂と高度化プログラム

カリキュラムについては、JABEE 認定を外れたことに伴う処置として、一部の実験実習科目の統合や選択科目の見直しを行ってきたが、令和 3(2021)年度に新たに文部科学省の大学改革推進等補助金(建設 DX をけん引する次世代型エンジニア育成事業)が採択された。デジタル技術と専門分野の融合による建設 DX を、特に低学年の実験実習科目に導入することで、高度な建設 DX 技術を有する人材を育成するためのカリキュラムの高度化に取り組んでいるところである。

建築学科

建築学科長(令和3年度) 中川 肇

平成 24(2012)年度から令和 3(2021)年度までの 10 年間における建築学科の動きを記す。

1. 教育環境・設備

明石高専創立 40 周年後の平成 14(2002)年 3 月に建築学科棟の改修工事が終了し、建築学科棟 1 階にものづくり演習室、構造材料実験室、マルチメディア教室、2 階に製図室、建築計画・環境系の演習室、5 A 教室、3 階に会議室・応接室、教員室、構造系の演習室が設置されている。平成 26(2014)年度、ものづくり演習室、マルチメディア教室の壁面全体をホワイトボード化する改修工事、並びにグループワークしやすい環境を構築するために、移動式 6 角形の机を配置した。以降、アクティブラーニング教育に特化した授業形態、教育研究活動が展開されている。

2. 教育・カリキュラム

平成 26(2014)年度、本校はグローバル高専の一高専に選定され、短期海外語学研修、海外インターンシップが実施され、また、香港、台湾、ドイツ、タイ、インドネシア等からの留学生は、本校に来校し、学生との国際交流が活発化した。平成 28(2016)年度から 4 学科横断、2 年～4 年生の 9、10 名の学生が週 1 回(木曜日 3 限)、Co+work の授業が導入され、教科書がなく、学生自身でテーマを選定し、前期、後期、共に活動し、成果物をポスターや動画で発表する科目である。令和 2(2020)年度は、SDGs(持続開発的な目標)を基にテーマを選択し、1 年間、活動を続けた。

3. 全国高専デザインコンペティション

平成 24(2012)年(第 9 回)～令和 3(2021)年(第 18 回)の全国高専デザインコンペティション(以下、デザコン)は、小山、米子、八代、和歌山、高知、岐阜、釧路、東京、仙台、呉高専が主管校として実施した。

過去 10 年間の建築学科学生のデザコン最優秀賞は、通算 8 回、優秀賞は通算 6 回、審査員特別賞は通算 6 回であった。

4. 見学旅行(5 年生で実施)

平成 24(2012)年度 台湾(花蓮、台北)

平成 25(2013)年度 ベトナム

平成 26(2014)年度 シンガポール

平成 27(2015)年度 リスボン

平成 28(2016)年度 シンガポール

平成 29(2017)年度 台湾(台北、台南、高雄)

平成 30(2018)年度 ベトナム

平成 31/令和元(2019)年度 タイ

令和 2(2020)年度 新型コロナウイルス感染症のため
中止

令和 3(2021)年度 九州方面(熊本・佐賀・福岡県)

5. 教員の異動

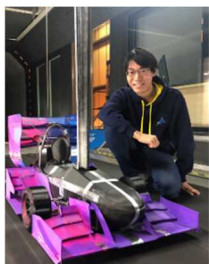
この 10 年間では、八木教授が学生主事、教務主事を歴任され、平成 28(2016)年度に国立高専機構本部に異動され、令和元(2019)年度より新居浜高専校長に着任された。また、学科長を歴任されてきた坂戸教授、田坂教授が再雇用終了とともに定年退職された。八木教授の後任として、平成 30(2018)年度に本塚助教を採用した。平成 24(2012)年度の学科教員数は 11 名であったが、平成 29(2017)年度以降、教員数は 9 名となり、授業、校務を分担している。

年度(平成/令和)	24	25	26	27	28	29	30	1	2	3
坂戸省三	5		長		3					
田坂誠一		3	FD	長						
八木雅夫	教	教	教	教						
大塚毅彦		4	5	3	図	専	専	イ	3	4
平石年弘	長	長	校	校	GE	イ	長	長		寮
工藤和美	4				長	長			図	5
中川肇		専	3		4	5			長	長
荘所直哉		5		4	5			4	5	専
東野トリア			4	5				専	専	
水島あかね	3					4	5		AL	AL
角野善則						3			1	
本塚智貴							4	5		3

※数字：担任の学年、教：教務主事、寮：寮務主事、校：校長補佐、長：学科長、FD：FD 委員長、イ：イノベーションオフィス長、GE：GE センター長、AL：AL センター長、図：図書館長、専：専攻主任

高専 vs 世界

田崎 雄大



開校 60 周年、おめでとうございます。僕が令和 3 (2021) 年度に明石高専を卒業後、F 1 エンジニアになることを目指してイギリスの Southampton 大学に編入してから約半年が経ちました。今は学生フォー

ミュラチームに所属しフロントウィングの空力設計を担当しています。僕からは、実際にイギリスに来て感じることを、海外でも通用している高専で得た能力の 2 つを紹介します。

僕の目標は世界一のエンジニアが集う F 1 チームという環境で自分の専門である空力を突き詰めることです。そのために、その道の名門である Southampton 大学への進学を決めました。大学でのモータースポーツ関連のインターンシップ公募や、学生フォーミュラのレベルの高さなどから、イギリスに来るという選択は正しかったと強く感じています。今は来年のインターンシップの機会を確実に掴めるように、授業内や学生フォーミュラで積極的に議論に参加し、空力全般の知識を正しく実用的に理解することを心がけています。

この半年間、大学での活動を通して一番感じたことは、高専で得た「実践力」がかなり評価されるということです。机上のアイデアを即行動に移すにはそれ相応の経験が必要で、その点で高専生は秀でていて感じます。僕の場合、高専の授業や卒業研究、エコラで培った CAD や数値解析などの経験を活かし、言語面での不利は感じながらも周りからの信頼を勝ち取ることができました。その結果、グループワークをリードしたり、学生フォーミュラで仕事を積極的に回してもらえるようになってきています。

世界を相手にして活躍するには、土台×突出した専門性が必要です。そして僕が知る限りでは、高専で得られる土台は世界的に見てもかなり水準の高いものであることは確かです。なので今後、進学先として、または就職先として海外に挑戦する学生がさらに増えることを楽しみにしつつ、母校の更なる発展に期待しております。

(令和 3 (2021) 年 3 月卒業 サウサンプトン大学在籍)

たどり来て…

東條 裕也



この度は、明石高専の創立 60 周年、心よりお祝い申し上げます。

私は平成 24 (2012) 年から 7 年間、機械工学科と機械・電子システム工学専攻でお世話になりました。思い返せば高専に入学してから

の 10 年間、私は好きなことに熱中し、刺激的な毎日を過ごしてきたと感じています。その中でたくさんものづくり経験をし、成長することができました。

特に強烈だったのはロボコンでの経験です。入学当初の私は、チームが地区大会での勝利を目指し中、一人生意気にも全国優勝を目指していました。しかし、その思いとは裏腹に、私が設計したロボットはすぐに壊れてしまい、歯がゆい思いを何度もしました。それでも毎晩夜遅くまで残り、仲間と共にロボットを作り、壊し、試行錯誤していく中で、知識やノウハウ、チームワーク等を身に付けることができました。4 年後、たくさんの人に支えられながら、操縦者として全国優勝まであと 2 勝という結果を残せたときの達成感は何ものにも代え難いものでした。

高専生活で得たものづくり体験はロボコンだけにとどまりません。高専祭の出し物としてクラスメイトと壮大なピタゴラ装置を企画し、高専祭 2 日目まで作業するも結局完成しなかった経験等も今思えば大変良いものでした。

これらの経験は進学や現在の仕事で大いに役立っています。私は現在、電子楽器の生産準備業務に従事しています。工程設計や設備設計をする中で何か課題に直面した時、高専時代のものづくり経験に助けられたことが何度もあります。ただ一方で、実際の製造現場でのものづくりは想像以上に奥深いものでした。まさに「たどり来て未だ山麓」といったところで、一人前の技術者になるにはまだまだ勉強が必要だとも感じます。

ものづくりに限らず、語学研修や音楽部での活動など、明石高専でのあらゆる体験が仕事をより豊かで面白いものにしてくれています。今後とも、明石高専のさらなる発展を心よりお祈り申し上げます。

(平成 29 (2017) 年 3 月卒業 ヤマハ株式会社楽器・音響生産本部勤務)

相手に「伝える」ということ 三木 浩之

高専を卒業し10年目となり、現在勤務している会社でも中堅と言われるようになりました。

それに伴い後輩も当然増えてくるのですが、仕事をしていく上で大切と思うスキルの一つに相手にうまく「伝える」ことが大切だと改めて感じています。

伝える相手が上司、先輩だけでなく、後輩となることで技術的な知識が少ない相手にもわかりやすく伝える力がより必要になってきました。

知っているだろう、ここまで説明しなくても大丈夫だろうと思うこともありますが、ゆっくり、丁寧に説明を心掛けています。

技術者やその分野に長期間携わっている人に多いように感じますが、説明などが自分本位になってしまったり、こうだと決めてしまったり、難しい言葉を使ったり、といったことが多いと感じます。(これも決めつけ、偏見ですね)

高専に在籍されている方も就職し、今よりもさらに多くの方と関わることになると思います。

授業で伝える能力を学んだり、実践する機会はなかなか少なく、自ら学んでいかないとなかなかもののできないものなのかなとは思いますが、学生の時から身につけておくことで就職するとき、した後で大きく他の人と差をつけることができると思います。

これから私も歳を重ねて、先輩、上司として後輩、部下の説明を聞く機会が多くなると思います。

聞く側としても相手に歩み寄ってを心掛けて仕事をしていきたいものです。

ここまで書いておいてなんですが、伝える力が大切というようなことは、私が学生の頃から(もっと前からかもしれませんが)言われているような内容です。学生の頃に特に重要視してなかったため現在苦しんでいる次第です。保護者の皆さまもご子息、ご息女に良くない例として話題にしていだければ幸いです。

難しい言葉を使わないように、簡潔にを意識して書かせていただいたつもりですが、伝える力は大切です。とお伝えしたい内容でした。

もう少し伝わりやすいように書きたかったですね。

(平成24(2012)年3月卒業 関西電力株式会社勤務)

10年を振り返って

多田 哲馬



高専卒業生には珍しく、修士卒業後、新聞社の技術総合職として採用され、13年間東京で働いてきた。現在はニュースサイト「読売新聞オンライン」の開発責任者をしている。

私は長田出身で阪神大震災のときは10歳。高専の同級生では家を失った人もおり、自分はそのまではひどくなかったが親が神戸市の職員であったこともあり、避難所の対応に駆り出された苦労話を聞いた。学校生活では人にはない経験をしてきたと思う。

入社後2年目に起きた東日本大震災。自分は記者という立場ではなかったが、同期の記者ほぼ全員が被災地で取材をした。正直なところ、この震災が起きるまで少年期に起きた阪神大震災のことは忘れており、新聞社の志望動機は自然言語処理のリソースがたくさんあって面白そうだなと考えていたくらいのものでした。

平成22(2010)年の暮れあたりからニュースサイトの担当になり、平成25(2013)年に東京オリンピックの開催が決まった。そこからはオリンピックで何ができるかを自分なりに考え行動してきた。

令和元(2019)年に現在のサイトをリニューアルし、自社開発となりそこから開発責任者となった。令和2(2020)年の新型コロナでオリンピックが開催延期となる中で、チームメンバーが半年間休むことになったり、他の人でコロナに感染したりということがあった。またオリンピックが開催されるかどうかわからないなかでいろいろな準備をしていくのは精神面できつかった。21年に実際開催されたのだが、達成感が味わいにくいものであった。

そして、令和4(2022)年高専60周年を迎える。弊社の技術社員でも今年度と昨年度で1人ずつ高専出身者が入ってきている。また令和4(2022)年3月22日から60周年を記念して教育面で連載が始まっている。高専と縁が遠そうなマスコミ業界でも高専生の活躍が伝達していることが伺える内容となっている。

実は4月から大阪転勤となり、17年ぶりに地元での生活となる。次は令和7(2025)年の関西万博が盛り上がるように頑張りたい。

(平成17(2005)年3月卒業 読売新聞社勤務)

～卒業生の10年～都市システム工学科

～私という構造物の基礎～

田口 敦士



明石高専創立 60 周年おめでとうございます。私は平成 23 (2011) 年に学科を卒業、平成 25 (2013) 年に専攻科を修了し、現在は大成建設にて鉄道工事の現場管理を担当しております。

中学校を卒業したばかりの少年に突然与えられる自由とそれに伴う責任の中で、個性豊かな先生方や、向上心に満ち溢れた学科・学寮の友人達に刺激を受け、貴重な時間を贅沢に使うことができた 7 年間は非常に充実した日々でした。高専時代の友人に会う度に、寮生活で先輩方に熱い指導を受けたこと、テスト前に過去問を頭に詰め込んだことや、実験レポートはいつも大急ぎで仕上げたことなど、懐かしい話にお酒が非常に進みます。

私の仕事は、職人さんのパワーを最大限に生かせるよう、関係者間の調整を行い、現場をバリバリ進める仕事です。問題を解決する力も知識も、コミュニケーション能力も、プロジェクトを進める力も、全て高専時代に学んだことが基礎となっています。現場が進む躍動感も、工事の完成を分かち合うことの喜びも、今の仕事が楽しくやがいを感ずることができるのは、明石高専で先生方や友人・先輩・後輩と出会い、成長できたからだと考えております。

今年度から就職活動のリクルーターをしており、明石高専の強みについて真剣に考えました。明石高専は好奇心旺盛な学生が多いと考えます。先生方は学生との独特な距離間の中、ご自身の知識や経験をたっぷりと教えてください。前向きに学び、分からないことを聞き、知識を深めていく。勉強ばかりでなく、学外での様々な活動に挑戦し、人生経験を積んでいく。勉強し過ぎでもなく、遊び過ぎでもなく、ちょっと余力がある。このちょうどいいバランスは明石高専の大きな強みで、社会人として成長・活躍するための大きな武器だと考えます。在校生の皆さんは自信を持ってください。

明石高専の先輩方や後輩達と一緒に仕事ができる機会を楽しみに、日々業務に取り組みたいと考えております。

(平成 23 (2011) 年 3 月卒業 大成建設株式会社勤務)

人生の半分が明石高専

生田 麻実



60 周年おめでとうございます、と書き出したいところではあるのですが、卒業生でもあり、いまだ明石高専内部の人間でもあるため、なんと書けばよいやらと迷いながら原稿を前に唸っています。

平成 21 (2009) 年 3 月に明石高専を卒業後、専攻科、神戸大学大学院を修了し、平成 25 (2013) 年より技術職員として、平成 30 (2018) 年からは助教として明石高専に勤めております。

受験時は電気情報工学科を志望し、第 2 希望の都市システム工学科に入学した私は当初土木に全く興味がありませんでした。かといって転学科ができるような成績もおさめられず、薄れる意欲、落ちる学力、2 年生になってもまだこれからどうしようと迷っていた記憶があります。ただそんな中でも実験や実習をしている間は楽しく、見たこともない道具、先生の謎の実験テクニック、理論値から外れ放題の自分の実験結果、難しくも新鮮なそれらの体験の「もうちょっとやりたい」を重ねていった結果、いつのまにか教員になっておりました。とりあえず目の前のものをいじくりまわして実験していたら好きになっていた、自分の専門になっていたもので、人生わからないものだなと思います。高学年時には、A 切の直前まで資料の散乱した机で毎週の実験レポート作成に追われていた思い出があります。現在は資料の散乱した机で学生のレポートの採点に追われています。…おかしい、まるで成長していない…と嘆きながら、まだ自分の「もうちょっとやりたい」を重ねています。

高専での学生生活を思い返すと、カリキュラムとして定められたものではない先生方の言葉、指導、かけてくださった時間、砕いてくださった心が、「失敗しても見放さずにいるのだから」という安心のもと勉学に励める環境を作ってくれていたのだと、今更ながらに実感します。しかし自分が指導する側になり、学生がやんちゃをすると、想像の 10 倍くらい的人数と時間が対応に割かれるのだということも知りました。在学生の皆さん、どうかほどほどに。

(平成 21 (2009) 年 3 月卒業 明石高専都市システム工学科 勤務)

明石高専で培った財産

石田 雄太郎

明石高専、創立60周年おめでとうございます。

私は平成20(2008)年に建築学科に入学しました。同時に親元を離れ、潮寮に入寮しました。今年で30歳になりますが、その人生の中で最も変化が大きい5年間であったのではないかと思うほど、充実した5年間でした。入学してすぐから専門的な授業が始まり、最初は戸惑う部分もありましたが、もとより興味があった分野なので大変ながらもクラスメイトと毎日楽しい日々を送っていました。また、潮寮での生活も刺激的な毎日、寮生とは家族よりも過ごす時間が長いため、寮生は家族のような存在になりました。

明石高専卒業後は広島大学に編入し、その後は東京工業大学の大学院に進学しました。高専では木質構造について研究していましたが、様々な構造について知識を深めたいと思い、大学からは鉄筋コンクリート構造について研究しました。その中で、これまで未解明であったものを解明する、ということに興味をもち、研究者を目指すようになりました。そして、東京工業大学で博士号を取得し、現在は飛鳥建設株式会社の技術研究所で研究開発に従事しています。

最近、木と鉄筋コンクリートのハイブリッド構造や、土木分野におけるコンクリート構造の研究開発にも携わっており、研究開発の職に就いた今でも、明石高専で学んだことが役立っている場面が多々あると感じます。特に建築学科の先生方が授業の中で、何気なく話していた余談が深く印象に残っていたりします。また、社会に出てからも明石高専の卒業生の方とお会いする機会や、一緒に仕事をしたりする機会があり、皆さんがそれぞれの道でご活躍されていることに刺激を受けています。

私が明石高専で培った財産を一言であらわすと「人の縁」です。在学中の皆さんには、明石高専という恵まれた環境で何事にも貪欲に挑戦して貰いたいと思います。そして、「人の縁」を大切に明石高専での日々を過ごして貰いたいと思います。

(平成25(2013)年3月卒業 飛鳥建設株式会社勤務)

高専での学び

西本 清里

明石高専創立60周年、おめでとうございます。

私が明石高専建築学科へ入学したのは平成25(2013)年です。中学時代の私は、専門的知識を持つ技術者というものに漠然とした憧れを抱いていました。明石高専のアドミッションポリシーを暗記して入試の面接に挑んだことは、今でもよく覚えています。

さて、入学から9年がたちましたが、あの頃憧れたかっこいい技術者になれているかという、まだまだです。今回この記事を書く機会をいただき、これまでを振り返る良い機会だと引き受けたのは良いのですが、正直なところ何を書けばよいか悩みました。高専というのは社会ですぐに活躍できるいわゆる「即戦力」の輩出を特色とした学校ですが、自分はそれにあてはまっていないと思ったからです。しかし、高専卒業から数年経った今、高専の意義はすぐに社会へ役立てることだけではないということも実感しています。

高専卒業後、私は大学へ編入し、現在は大学院で勉強しています。私が大学編入を決意したのは、高専で学ぶ中で建築分野の裾野の広さを知り、もっと視野を広げたいと思ったことがきっかけでした。大学院では立体・幾何学を扱う研究室に所属しており、建築からやや離れた分野ということもあって建築以外が専門の方と話す機会も増えました。自分の専門を深める一方、他学部・他学科の講義を受講したり多様な分野の学生と話したりする経験はとても刺激的で、新しいことを知るたび世界の広さに圧倒されるばかりです。そうした中で気づいたのは、分野を越えて交流や協働する時にこそ建築という専門的背景が自分を幹のように支えてくれているということです。

まだ自分の行く先も立ち位置も定まらない未熟な私ですが、今後どんな分野に進んだとしても、高専での学びは間違いなく財産であり、私の根幹であると確信しています。高専で学んだことを大切にしながらも、分野の垣根を越えられるような専門家になりたいと今は思っています。

(平成30(2018)年3月卒業 東京大学大学院在籍)

～修了生の10年～専攻科

3つの出会い

萬井 公一

明石高専創立60周年おめでとうございます。

私は機械工学科、機械・電子システム工学専攻を経て、現在はIMV株式会で製品開発とマーケティングを兼務しております。このお話をいただき、改めて専攻科の2年間を振り返りました。私にとって、大きな3つの“出会い”がありました。

まず1つ目は“勉強との出会い”です。高専5年間は進級や卒業のための勉強という意識が強かったのですが、専攻科では取れる単位は出来るだけ取ろうという気持ちで貪欲に勉強しました。機械出身なので電気系の講義はかなり難しかったですが、とても新鮮でした。専攻科で新しく出来た電気出身の友達と、ああでもない、こうでもないと頭を抱えながら課題に取り組んだのは良い思い出です。

2つ目は“大向先生との出会い”です。卒業して10年以上経った今でも交流があるのは大向先生だけです。機械工学科の先生方、薄情でごめんなさい。藤原先生、ぜんぜん連絡しておらずすみません。お元気でしょうか。

3つ目は“妻との出会い”です。詳細は省きますが私にとって一番大きな出会いです。毎日楽しく健やかに過ごしているのは妻のおかげですので、出会うキッカケとなった専攻科には頭が上がりません。ありがとうございます。

専攻科を修了した後はIMV株式会社に入社しました。IMV株式会社には明石高専のOBがおらず、藤原先生にも両親にも止められましたが、自分の『面白そう』という直感に従って入社を決めました。今では毎日楽しく機械を開発しています。設計通りにモノが出来たときの“うまいことやった”感、何度味わっても良いものです。そして、生み出した装置が出荷され、お客様の喜びの声をいただいたとき、開発して良かった…と心の底から思います。

最後になりましたが、在校生の皆さん、自分の『面白そう』を信じて突き進んでください！そうすれば、いつまでもワクワク過ごすことができます！ここまで読んでいただき、ありがとうございました。

(平成23(2011)年3月修了 IMV株式会社勤務)

熱意をもって本気で取り組むということ

川原 知也



明石高専創立60周年誠におめでとうございます。私は明石高専専攻科を修了し、一昨年より、中央復建コンサルタンツで勤めています。私が明石高専に入学した理由は、「災害に強いまちづくりができる技術者」になるためです。私は神戸市出身で、幼い頃から阪神淡路大震災の悲惨さを両親から聞いてきました。そして、いつの間にか、「日本を災害に強い国にしたいなあ」とぼんやり思い浮かべていました。

入社直後に配属された部署は、運良く私が夢見た技術者としての仕事を担っています。災害を事前に防ぐ検討はもちろん、落石や土石流、地すべり等が発生した際は、いち早く現場に出動し、災害要因や対策方針について協議することもあります。この記念誌を執筆する1週間前も、災害現場の調査を行っていました。災害現場では、一刻も早い復旧が望まれることから、特に、熱意を持った技術者が集まります。そのような技術者を目の当たりにする度、明石高専での経験を思い出します。

明石高専では、都市システム工学科の先生方をはじめ、多くの方々にお世話になりました。特に野球部での経験は、大変貴重なものでした。入部直後の私に「一から叩き直してやる！」と顧問の先生からご指導いただいたことは、今でも強く印象に残っています。それから毎日の練習を経て、全てが中途半端だった私に「熱意をもって本気で取り組む習慣」が身に付き、野球だけでなく、人間として大きく成長できました。その習慣が日頃の勉強や卒業研究、特別研究にも発揮され、良い成果を納めることができたと思います。

在校生の皆さんの中には、将来取り組みたいことが分からない人もいます。偉そうに言える立場ではありませんが、そのような人こそ、何でも良いので熱意をもって本気で取り組んでもらいたいです。きっと人生が良い方向に変わります。

最後になりますが、明石高専が創立60周年を契機に、ますます発展されますことを心よりお祈り申し上げます。

(令和2(2020)年3月修了 中央復建コンサルタンツ株式会社勤務)

～課外活動の10年～

近畿地区高専体育大会の記録

	平成24年度(2012)	平成25年度(2013)	平成26年度(2014)	平成27年度(2015)	平成28年度(2016)
陸上競技	男子200m 3位 男子800m 2位 男子1500m 1位 男子5000m 3位 男子4×100mR 2位 男子4×400mR 2位 男子走高跳 2位 男子砲丸投 2位 男子円盤投 3位	男子400m 4位 男子5000m 2位 男子4×400mR 2位 男子走高跳 1位 男子砲丸投 2位 女子800m 2位	男子400m 3位 男子5000m 4位 男子110mH 4位 男子走高跳 1位 男子砲丸投 1位 男子やり投 3位 女子800m 1位 女子砲丸投 2位	男子400m 4位 男子1500m 3位 男子5000m 3位 男子110mH 3位 男子走高跳 1位 男子砲丸投 3位 男子やり投 2位 女子800m 2位 女子砲丸投 2位	男子100m 4位 男子110mH 2位 男子走高跳 2位 男子やり投 1位 女子800m 2位 女子砲丸投 1位
男子バスケットボール					
女子バスケットボール				1位	1位
男子バレーボール	1位	1位	2位	2位	2位
女子バレーボール		2位	2位	2位	2位
ソフトテニス			男子個人 2位		女子W 1位 女子S 1位
卓球	女子W 2位	女子W 1位 2位 女子S 1位	女子W 1位 女子S 1位	男子団体 2位 女子W 1位 女子S 1位	男子W 1位 女子W 2位 女子S 1位
柔道	男子90kg級 1位 2位	男子73kg級 2位 男子90kg級 2位	男子団体 2位	男子73kg級 1位	男子73kg級 2位
剣道		女子個人 2位		女子個人 1位	女子団体 1位 女子個人 1位 2位
硬式野球					1位
サッカー	2位		2位		2位
ラグビーフットボール					
ハンドボール	2位	2位	2位	2位	1位
テニス				女子W 1位 女子S 2位	女子S 2位
バドミントン	男子団体 1位 男子W 1位 男子S 1位 2位 女子W 1位 女子S 2位	男子団体 1位 男子W 2位 男子S 1位	男子団体 2位	女子団体 2位 男子S 2位	男子団体 2位 女子団体 2位 女子W 1位
水泳	男子100mバタフライ 3位 女子50m背泳ぎ 2位 女子50mバタフライ 2位	男子200m自由形 3位 男子100m背泳ぎ 2位 男子200m背泳ぎ 2位 男子400mトレー-R 2位	男子200m自由形 1位 男子100m背泳ぎ 2位 男子400mトレー-R 2位	男子100m自由形 2位 男子200m自由形 1位 男子200m背泳ぎ 2位 男子100mバタフライ 2位	男子100m自由形 2位 男子200m自由形 1位 3位 男子200m背泳ぎ 2位

全国高専体育大会の記録

	平成24年度(2012)	平成25年度(2013)	平成26年度(2014)	平成27年度(2015)	平成28年度(2016)
陸上競技	男子5000m 19位 男子走高跳 10位 男子砲丸投 12位 男子円盤投 16位	男子5000m 13位 男子走高跳 10位 男子砲丸投 7位 女子800m 3位	男子砲丸投 8位 女子800m 3位 女子砲丸投 3位	男子5000m 16位 男子走高跳 3位 男子砲丸投 11位 男子やり投 16位 女子800m 5位 女子砲丸投 3位	男子110mH 7位 男子走高跳 6位 男子やり投 6位 女子800m 5位 女子砲丸投 1位 女子3000m 7位 女子やり投 9位
女子バスケットボール					
男子バレーボール		3位			
柔道	男子90kg級 1位			男子73kg級 3位	男子73kg級 2位
剣道					
ハンドボール					
水泳			男子100m背泳ぎ 7位 男子400mトレー-R 13位	男子100m自由形 7位 男子200m背泳ぎ 8位	男子100m自由形 5位 男子200m背泳ぎ 6位

	平成29年度 (2017)	平成30年度 (2018)	令和元年度 (2019)	令和2 (2020)※	令和3年度 (2021)
陸上競技	男子100m 3位 男子1500m 1位 男子4×100mR 2位 男子110mH 1位 男子やり投 3位 女子800m 2位 女子砲丸投 1位	男子1500m 1位 男子110mH 1位 男子円盤投 3位 女子800m 1位 2位 女子砲丸投 2位	男子1500m 3位 男子110mH 3位 男子やり投 3位 女子800m 1位 2位		男子800m 3位 男子1500m 1位 2位 男子5000m 1位 2位 3位 男子やり投 2位 女子800m 2位 女子砲丸投 1位
男子バスケットボール				1位	
女子バスケットボール	1位	1位	1位		1位
男子バレーボール	2位		2位		1位
女子バレーボール	2位	2位	2位		
ソフトテニス					
卓球	男子団体 2位 男子W 2位 女子S 2位	男子団体 2位 女子W 3位	女子W 2位		女子団体 1位 女子W 1位 女子S 2位
柔道	男子団体 2位 男子60kg級 1位 男子73kg級 1位 2位	男子団体 2位 男子60kg級 1位	男子90kg級 2位		男子団体 2位 男子個人73kg級 1位
剣道	男子個人 2位 女子個人 2位	男子個人 1位 3位 女子個人 1位	男子個人 3位		男子団体 1位 女子個人 1位 2位
硬式野球					
サッカー					
ラグビーフットボール					
ハンドボール	1位	2位			
テニス					
バドミントン	男子団体 2位 女子W 2位	男子団体 1位 女子W 1位 女子S 1位	女子団体 1位 男子S 2位 女子W 1位 女子S 1位 2位		女子団体 1位 女子W 1位 女子S 1位
水泳	男子100m自由形 1位 男子200m背泳ぎ 3位 女子100m平泳ぎ 2位	男子50m自由形 3位 女子200mフリーR 2位 女子200mメドレーR 2位 女子100m平泳ぎ 2位	女子100m平泳ぎ 2位		女子100m平泳ぎ 2位 女子100mバタフライ 2位

	平成29年度 (2017)	平成30年度 (2018)	令和元年度 (2019)	令和2 (2020)※	令和3年度 (2021)
陸上競技	男子110mH 5位 男子やり投 10位 女子800m 8位 女子砲丸投 1位 女子3000m 10位 女子円盤投 1位	男子1500m 9位 男子110mH 1位 男子円盤投 17位 女子砲丸投 2位 女子円盤投 5位 8位	男子やり投 17位 女子3000m 14位		男子1500m 4位 7位 男子5000m 7位 男子3000mSC 4位 女子800m 4位 女子3000m 5位 6位 女子砲丸投 3位
女子バスケットボール			3位		3位
男子バレーボール					2位
柔道	男子60kg級 1位 男子73kg級 1位 2位				
剣道	男子個人 2位				
ハンドボール	2位				
水泳	男子100m自由形 7位 男子200m背泳ぎ 8位 女子100m平泳ぎ 5位	女子200mメドレーR 3位 女子100m平泳ぎ 5位	女子100m平泳ぎ 6位		女子100m平泳ぎ 7位 女子100mバタフライ 4位

※令和2年度(2020)は新型コロナウイルス感染症の影響により、開催せず

ロボコンの10年

森下 智博

平成 24(2012)年から令和 3 (2021)年のロボコンは、何度も全国優勝に手が届くところまで行きながら、幸運に恵まれず、悔しい思いを募らせた 10 年間であった。この 10 年間の戦績は、近畿地区大会で優勝 1 回、準優勝 2 回、ベスト 4 が 3 回である。7 回の全国大会出場を果たし、2 回のベスト 4 進出を成し遂げた。前の 10 年間では全国大会出場が平成 17(2005)年の 1 回だけであったことを考えれば、まさに隔世の感である。ベスト 4 の 2 回はもちろん、上位進出できなかつたときでも、マシンの完成度では優勝していてもおかしくない出来栄であった。アナウンサーのロボット紹介に影響された審査員判定や、大会運営側からの過剰な安全対策要求など、番組制作者の技術的理解の低さや学生への配慮のなさに悔し涙を流してきた。すでに、本校ロボット工学研究部は、技術力と組織力において高専トップクラスの実力を備え、強豪校と呼ばれるまでになっている。近い将来、必ずや全国優勝を成し遂げてくれるものと期待している。

変化のきっかけは平成 23(2011)年。多くの教員が参加する指導・支援体制を構築したこと。ロボット工学研究部を、ロボット愛好者たちの水平的集団から、ロボットエンジニアたちのピラミッド型組織へと変貌させた。作りたいロボットを好きなように作って楽しむ部活動から、勝てるロボットを作って戦う部活動へ。このテコ入れはわずか 4 年で終了し、今では学生の自主的運営に任されている。チームリーダーの統率のもとで、スケジュール管理と責任ある役割分担がなされ、チーム全員のアイデアでより良いロボットが作り上げられていく。近畿地区大会の 1 ヶ月前に試作機が完成し、練習を重ねながら問題点を解決していく。最新技術を貪欲に学習し、先輩が後輩に教え、指導する。教員はただ見守るだけである。

活動に参加してきた学生、支援していただいた卒業生・教職員、関係する全ての方々に感謝申し上げる。

プロコンの10年

井上 一成

平成 2 (1990)年の第一回京都大会に始まった全国高等専門学校プログラミングコンテストは、令和 4 (2022)年には第 33 回を迎えます。明石高専からも競技部門に応募中です。学生たちの活躍にご期待ください。各年度の開催において、課題とテーマが開示されます。第一回大会では「やる気と脳にいい汗かこう」、平成 12(2000)年の第 11 回大会では「技術はミレニアムを超えて」でした。また今から 10 年前の平成 25(2013)年の第 23 回大会では、「課題部門：ICT でサポートする明るい少子高齢化社会」、そして今年第 33 回では、「課題部門：オンラインで生み出す新しい楽しみ」が掲げられています。このように課題を振り返りますと、当時の社会と情報処理技術との関わりを知ることができます。課題とともにプログラミングコンテストの企画について歴史を振り返りますと、かつては全国高等専門学校連合会が主催する情報処理に関わる教員によって、主に調査研究の場として開催されました。これが平成元(2019)年になって、高専学生によるコンテストとしての開催に改められました。全国高等専門学校プログラミングコンテストの幕開けです。平成 5 (1993)年の第 5 回からは、課題・自由に加えて競技部門が設けられ、合計 3 部門でコンテストが実施されています。また国際化も進んでおり、第 15 回では、ベトナムのハノイ工科大学が参加されました。さらに第 20 回大会からは、国際プログラミングコンテストが開催されています。

全国高等専門学校プログラミングコンテストについて、より詳細な情報はウェブから入手することができます。全国高等専門学校プログラミングコンテスト HP <https://www.procon.gr.jp> をぜひご参照ください。また、<http://procon-online.net/> では“PROCON Online”について紹介されています。PROCON Online とは、全国高等専門学校プログラミングコンテストの競技部門で製作されたプロジェクトです。コンテストには多くの要望事項が集められ、毎年ルールが更新されます。競技システムの有効活用を目的として、高専の学生・教職員さらに卒業生を含めて、自由に活かな議論が可能なシステムとして運営されています。

デザコンの10年

東野 アドリアナ

全国高専デザインコンペティションの始まりは昭和52(1977)年に明石高専と米子高専の建築学科間で行った交流に至ります。その後、参加校を増やし形態を変え発展した。今では全国の高等専門学校で競われるコンテスト、ロボットコンテスト【ロボコン】、プログラミングコンテスト【プロコン】に続く、第三の競技の一つです。建築学科特有の設計競技として始まったデザコンは、国立高専が独立行政法人化した平成16(2004)年から主催は高等専門学校連合会となり、デザインの領域を「人が生きる生活環境を構成するための総合的技術」と捉え直し、建築学科の枠を超えた全国の高専全体で取り組む「全国高等専門学校デザインコンペティション」に生まれ変わりました。

明石高専からは毎年、学生たちが積極的な応募をし、多くの学生が予選を通過して本選(全国高専デザコン)に出場します。この10年間も明石高専の学生たちが全国をリードする優秀な成績を残し、様々な部門で入賞を続けています。

「デザコン2020 in Natori」大会では、創造デザイン部門で1チームが最優秀賞(文部科学大臣賞)、他1チームが審査員特別賞、プレデザコン部門で1チームが最優秀賞を受賞しました。「デザコン2021 in 呉」大会では、創造デザイン部門で1チームが最優秀賞(文部科学大臣賞)、他1チームが審査員特別賞、空間デザイン部門で、1チームが優秀賞、構造デザイン部門で1チームが審査員特別賞を受賞し、2年連続で文部科学大臣賞を受賞しています。



プレコンの10年

ハーバート ジョン

高等専門学校英語プレゼンテーションコンテストが平成19(2007)年に始まり、それ以来15年間で近畿地区大会では28の個人・チームが3位以内に入賞した。全国大会においては、これまでに6の個人・チームが入賞しており、この令和4(2022)年1月に行われた大会では樺田壮人さん、大池岳さん、金澤愛奈さんのチームが文部科学大臣賞(第1位)を受賞した。留学生が校内でのプレゼンテーションコンテスト参加者の指導やサポートに携わっている。令和2(2020)年はコロナの影響で特別に順位を競わないオンラインでの地方大会が行われ、その時には一般の学生と共に留学生もコンテストに参加した。また、明石高専が近畿地区大会を主催した際には留学生が司会などのボランティアを行った。毎年留学生や海外からのインターンの方々からも協力を得ながら、コンテストの経験者が新たな参加者をサポートし、英語でのプレゼンテーションの技術を先輩から後輩へと引き継いできている。これからもこのような国際的で友好的な協力体制が続くことを願っている。

英語プレゼンテーションコンテスト入賞結果

近畿地区大会

	シングル部門	チーム部門
1位	2007(低学年の部・留学生の部), 2009, 2012, 2014, 2018, 2019	2012, 2014, 2017
1位	2009, 2012, 2014, 2018, 2019	2012, 2014, 2017
2位	2007(高学年の部), 2010, 2013, 2018	2009, 2010, 2013, 2018, 2021

全国大会

	シングル部門	チーム部門
1位	-	2021
2位	2007, 2020	-
3位	2014	2012
特別賞	-	2010

同窓会の10年

同窓会会長 吉田 仁
(昭和53年電気工学科卒)

明石高専同窓会のこの10年間の歩みを紹介させていただきます。合わせて、各科の同窓会の状況につきましてもご報告させていただきます。

同窓会会長はこの10年間で、6代目に土木工学科卒澤田敏郎氏、7代目に機械工学科卒永指彰三氏が就任され、令和元(2019)年度から8代目の会長を私が務めさせていただいております。

同窓会の主な活動として、学生の参加する各種コンテストへの援助を行っています。ロボットコンテスト(ロボコン)、Honda エコマイレージ チャレンジ(エコラン)、デザインコンペティション(デザコン)への支援を行ってきました。役員会につきましては、例年高専祭に合わせて開催しています。ただし、令和2(2020)年、令和3(2021)年度は、新型コロナウイルス感染症拡大のため、開催を見合わせることとなりました。

また、明石高専同窓会50周年記念総会を平成29(2017)年2月4日(土)にANAクラウンプラザホテル神戸において、卒業生約100名の出席のもと開催いたしました。

総会では、永指彰三会長(M7)、笠井秀明校長のご挨拶があり、その後同窓会及び学校の状況が報告されました。総会后、広島大学有尾一郎助教(C21)の記念講演が行われました。また、続いて同会場において懇親会が行われました。懇親会では、笑福亭銀瓶氏(E22)のトークを交え、出席者有志の挨拶もいただき、楽しいひと時を過ごすことができました。

次に各科同窓会の状況を報告いたします。各科同窓会のホームページが設けられています。明石高専ホームページからリンクできます。

・機械工学科同窓会(明機会)

ロボコン、エコランへの支援および在校生向け進路相談を実施しています。関東では、新入社員、大学への新編入生との懇親会を開催しています。

・電気情報工学科(子午線会)

年1回の総会および懇親会を開催しています。

・都市システム工学科(朋友会)

年1回理事会の開催および会報を発行しています。また、在校生向け進路相談会を実施しています。

・建築学科同窓会(明石高専建築会)

2年に1度総会を行っており、2年間の活動報告や退官される先生方の退官記念講演などをあわせて行っています。会報誌の発行、明石高専建築会賞、進路相談セミナー、教育懇談会を開催しています。建築会30周年事業として、京都精華大学学長ウスビ・サコ氏を講師に迎え、『「これからの世界」を生きる君に伝えたいこと』をテーマにオンラインによる記念講演会を行いました。

以上のように、各科の同窓会ではさまざまな活動が行われています。

今後の同窓会の新たな取り組みとして、同窓生が気軽に集まり、学生時代の思い出や近況を語り合うことのできる集い場の設置に向けて、検討を進めてまいります。会員皆様のご協力をお願いいたします。



明石高専同窓会50周年記念総会

～学校組織・校務分担の10年～

	平成24年度 (2012)	平成25年度 (2013)	平成26年度 (2014)	平成27年度 (2015)	平成28年度 (2016)	平成29年度 (2017)	平成30年度 (2018)	令和元年度 (2019)	令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)
校長	京兼 純	京兼 純	京兼 純	笠井 秀明	笠井 秀明	笠井 秀明	笠井 秀明	笠井 秀明	神戸 宣明	神戸 宣明
教務主事	八木 雅夫 (副校長)	八木 雅夫 (副校長)	八木 雅夫 (副校長)	八木 雅夫 (副校長)	森下 智博 (校長補佐)	堀 桂太郎 (副校長(教育 改革担当))	堀 桂太郎 (副校長(教育 改革担当))	堀 桂太郎 (校長補佐)	堀 桂太郎 (校長補佐)	森下 智博 (校長補佐)
副校長 (総務担当)	友久 誠司				江口 忠臣	江口 忠臣	江口 忠臣	江口 忠臣	江口 忠臣	江口 忠臣
副校長 (組織改革担当)		1/1～ 森下 智博	森下 智博	～4/15 森下 智博 7/1～ 平石 年弘	平石 年弘	堀 桂太郎	堀 桂太郎			
学生主事 (校長補佐)	檀 和秀	檀 和秀	檀 和秀	加藤 隆弘	加藤 隆弘	森下 智博	森下 智博	森下 智博	森下 智博	穂本 浩美
寮務主事 (校長補佐)	高田 功	高田 功	高田 功	堀 桂太郎	堀 桂太郎	本間 哲也	本間 哲也	善塔 正志	善塔 正志	平石 年弘
専攻科長 (校長補佐)	堀 桂太郎	堀 桂太郎	堀 桂太郎	神田 佳一	神田 佳一	神田 佳一	神田 佳一	中西 寛	中西 寛	中西 寛
機械工学科長	森下 智博	國峰 寛司	國峰 寛司	國峰 寛司	境田 彰芳	境田 彰芳	國峰 寛司	國峰 寛司	加藤 隆弘	加藤 隆弘
電気情報工学科長	中井 優一	堤 保雄	佐村 敏治	濱田 幸弘	濱田 幸弘	大向 雅人	井上 一成	井上 一成	井上 一成	周山 大慶
都市システム工学科長	鍋島 康之	鍋島 康之	鍋島 康之	江口 忠臣	檀 和秀	江口 忠臣	石丸 和宏	石丸 和宏	神田 佳一	神田 佳一
建築学科長	平石 年弘	平石 年弘	坂戸 省三	田坂 誠一	工藤 和美	工藤 和美	平石 年弘	平石 年弘	中川 肇	中川 肇
一般科目長	松下 幸一	松下 幸一	松下 幸一	松田 安隆	松田 安隆	善塔 正志	善塔 正志	松田 安隆	高田 功	ハーバート ジョン 高田 功
人文科学系長										
自然科学系長										
クラス経営主幹						穂本 浩美	穂本 浩美	穂本 浩美	穂本 浩美	濱田 幸弘
研究主幹						神田佳一	神田 佳一	中西 寛	中西 寛	中西 寛
情報メディアセンター長			穂本 浩美	大塚 毅彦	大塚 毅彦	中井 優一	中井 優一	～9/30 佐村 敏治 10/1～ 井上 一成	井上 一成	井上 一成
図書館長	境田 彰芳	穂本 浩美	穂本 浩美	大塚 毅彦	大塚 毅彦	中井 優一	中井 優一	～9/30 佐村 敏治 10/1～ 井上 一成	工藤 和美	武田 字浦
情報センター長	堤 保雄	中井 優一	中井 優一	中井 優一	中井 優一	中井 優一	中井 優一	～9/30 佐村 敏治 10/1～ 井上 一成	井上 一成	井上 一成
技術教育支援センター長	加藤 隆弘	境田 彰芳	境田 彰芳	関森 大介	関森 大介	佐村 敏治	佐村 敏治	加藤 隆弘	大森 茂俊	大森 茂俊
テクノセンター長	神田 佳一 (校長補佐)	神田 佳一 (校長補佐)	神田 佳一 (校長補佐)	檀 和秀(校 長補佐)	鍋島 康之 (校長補佐)	中西 寛	中西 寛	神田 佳一	石丸 和宏	神田 佳一
国際交流センター長 (校長補佐) グローバルエデュ ケーションセン ター長		松田 安隆	松田 安隆	穂本 浩美 (校長補佐)	飯島 睦美 (校長補佐)	藤原 誠之	藤原 誠之	ハーバート ジョン	ハーバート ジョン	鍋島 康之
アクティブラーニ ングセンター長		平石 年弘 (校長補佐)	平石 年弘 (校長補佐)	平石 年弘 (校長補佐)	梶村 好宏 (校長補佐)	梶村 好宏	梶村 好宏	梶村 好宏	水島 あかね	水島 あかね
学生支援オフィス長										濱田 幸弘
学生相談室長	前原 澄子	前原 澄子	加藤 隆弘	飯島 睦美	飯島 睦美	加藤 隆弘	加藤 隆弘	穂本 浩美	穂本 浩美	松塚 直樹
イノベーション オフィス長					平石 年弘	平石 年弘	大向 雅人	大塚 毅彦	梶村 好宏	梶村 好宏
教務副主事	大森 茂俊	成枝 秀介	成枝 秀介	成枝 秀介	藤原 誠之	関森 大介	関森 大介	加藤 隆弘	平石 年弘	上 泰
教務副主事	成枝 秀介	渡部 守義	渡部 守義	渡部 守義	渡部 守義	梶村 好宏	小笠原 弘道	三好 崇夫	三好 崇夫	角野 嘉則
教務副主事	井上 英俊	松宮 篤	松宮 篤	小笠原 弘道	小笠原 弘道	小笠原 弘道				
学生副主事	佐村 敏治	岩野 優樹	岩野 優樹	史 鳳輝	上 泰	松宮 篤	松宮 篤	松塚 直樹	松塚 直樹	武田 字浦
学生副主事	荘所 直哉	佐村 敏治	新井 イスマイル	新井 イスマイル	石内 鉄平	上 泰	角野 嘉則	角野 嘉則	武田 字浦	荒川 裕紀
学生副主事	本間 哲也	高野 啓児	高野 啓児	石内 鉄平	後藤 太之					
寮務副主事	岩野 優樹	松塚 直樹	松塚 直樹	大森 茂俊	大森 茂俊	大森 茂俊	井上 英俊	周山 大慶	周山 大慶	関森 大介
寮務副主事	中川 肇	梶村 好宏	梶村 好宏	梶村 好宏	水島 あかね	井上 英俊	武田 字浦	中川 肇	北川 千穂	後藤 太之
寮務副主事	～8/31 仁木 夏実 9/1～ 前原 澄子	ハーバート ジョン	ハーバート ジョン	水島 あかね	井上 英俊					
事務部長	中島 庸介	中島 庸介	渡邊 悟司	渡邊 悟司	渡邊 悟司	浅井 浩文	浅井 浩文	森田 淳	森田 淳	稲垣 幸三
総務課長	小野 栄津夫	小野 栄津夫	小野 栄津夫	黒田 純子	中尾 敏明	中尾 敏明	金城 邦光	金城 邦光	鶯野 晃弘	鶯野 晃弘
学生課長	森川 潔	森川 潔	新居 忠幸	新居 忠幸	新居 忠幸	白井 隆弘	白井 隆弘	～12/31 (併)森田 淳 1/1～ 丸尾 博司	丸尾 博司	丸尾 博司

～教員人事歴～（平成24年4月1日～令和4年3月31日）

異動日	機械工学科	電気情報工学科	都市システム工学科	建築学科	一般科目（～令和2年まで） 人文科学系/自然科学系	専攻科	異動内容
平成24年4月1日	池田 光優	濱田 幸弘 幸田 憲明			武田 充啓		転出（交流） 転入（交流）
	松塚 直樹						採用
平成24年10月1日			三好 崇夫				採用
平成25年1月7日					石原 のり子		採用（臨時）
平成25年2月28日		藤野 達士	大橋 健一 友久 誠司				退職
平成25年3月31日	松下 通紀						定年退職
平成25年4月1日	大森 茂俊				冨永 和元 桑原 伸弘 森 芳周		転出（交流） 転入（交流）
		豊島 晋	佐野 博昭				採用
		濱田 幸弘 周山 大慶	稲積 真哉 中村 文則				再雇用
	松下 通紀						定年退職
平成26年3月31日					倉光 利江 前原 澄子 石原 のり子	退職 退職 雇用期間満了	
平成26年4月1日			佐野 博昭		武田 充啓 桑原 伸弘 森 芳周		転出（交流）
	大森 茂俊						転入（交流）
					飯島 睦美 倉光 利江		転入 再雇用
平成27年3月31日	松下 通紀				高野 啓児	退職 雇用期間満了	
平成27年4月1日		豊島 晋			武内 将洋		転出（交流）
			高見 徹		武田 ひとみ 長尾 秀人		転入（交流） 採用
平成27年6月30日			中村 文則				退職
平成28年3月31日		新井イスマイル		坂戸 省三	松下 幸一		定年退職 退職
平成28年4月1日			高見 徹		倉光 利江		雇用期間満了 転出（交流）
				八木 雅夫			転出
		奥村 紀之 井上 一成			平岡 和幸 武内 将洋		転入（交流）
		砂原 米彦		坂戸 省三	松下 幸一	中西 寛	採用 再雇用
平成28年9月30日					石田 祐	退職	
平成29年3月31日		堤 保雄	檀 和秀 稲積 真哉	田坂 誠一			定年退職 退職
平成29年4月1日					飯島 睦美 平岡 和幸 水野 知津子 荒川 裕紀 小林 優希		転出（交流） 転入（交流） 転入
						竹岡 篤永 本坊 さおり	採用
			檀 和秀 石内 鉄平	田坂 誠一			再雇用
	平成29年9月30日				松下 幸一		退職
平成30年3月31日		成枝 秀介 奥村 紀之 砂原 米彦					退職 雇用期間満了
平成30年4月1日			石松 一仁 生田 麻実	本塚 智貴	小野 慎司 北川 千穂		転入（交流） 採用
		庫本 篤					配置換 再雇用
平成30年9月30日					武田 ひとみ		退職
平成31年3月31日		庫本 篤	檀 和秀	田坂 誠一			雇用期間満了 定年退職
平成31年4月1日	藤原 誠之				水野 知津子		転出（交流）
令和元年9月30日		佐村 敏治			水野 知津子 本間 哲也		再雇用 退職
令和2年1月1日						水野 裕貴	採用
令和2年3月31日					松田 安隆 仁木 夏実		定年退職 退職
令和2年4月1日		平野 雅嗣 土田 隼之 野村 隼人					転入（交流） 転入 採用
					松田 安隆 黒田 秀教		再雇用 採用
	令和2年9月1日						退職
令和2年10月31日						本坊 さおり	退職
令和3年3月31日	境田 彰芳						定年退職
		堀 桂太郎				竹岡 篤永	退職
令和3年4月1日					水野 知津子 黒杭 良美		雇用期間満了 採用
	境田 彰芳 大西 祥作						再雇用
令和3年11月1日					久保田 育美		採用
令和4年3月31日		中井 優一			善塔 正志 黒田 秀教		定年退職 退職
	岩野 優樹		石丸 和宏		松田 安隆		雇用期間満了

施設

単位 m²

	平成23 年度 (2011) 以前	平成24 年度 (2012)	平成25 年度 (2013)	平成26 年度 (2014)	平成27 年度 (2015)	平成28 年度 (2016)	平成29 年度 (2017)	平成30 年度 (2018)	令和元 年度 (2019)	令和2 年度 (2020)	令和3 年度 (2021)
校舎等施設	本館及び学科等	12,856									
	実習工場	696									
	門衛所	23									
	車庫	108									
	倉庫・物品個	245									
	ボイラー室	156									
	協同学習センター	408									
	危険物物品個	30									
	教室棟	450									
	階段教室	216									
	応用物理実験室	155									
	ポンプ室	28									
	変電室	33									
	専攻科棟	978									
	テクノセンター	413									
	インフラ総合実験棟	0		323							
	総合的河川流実験室	0		50							
	小計	16,795	0	373	0	0	0	0	0	0	0
体育運動施設	情報メディアセンター	1,739									
	体育館	1,598									
	武道場	476									
	体育器具庫	273									
	プール附属屋	72									
	屋外便所	10									
	屋外更衣室	89									
小計	2,518	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
福利厚生	学寮食堂	334									
	国際交流プラザ	203									
	福利施設	812									
	小計	1,349	0	0	0	0	0	0	0	0	0
学生寮施設	学生寮	3,474									1,502
	浴室	108									
	洗濯場	24									
	ポンプ室等	76									
	中央棟	305									
	小計	3,987	0	0	0	0	0	0	0	0	1,502
職員宿舎	職員宿舎	627									
	ポンプ室等	10									
	職員宿舎(借り上げ)	388									
	小計	1,025	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	27,413	0	373	0	0	0	0	0	0	1,502	
累計	27,413	27,413	27,786	27,786	27,786	27,786	27,786	27,786	27,786	27,786	29,288

蔵書 (社)日本図書館協会 大学・短期大学・高専図書館調査票より

		平成24 年度 (2012)	平成25 年度 (2013)	平成26 年度 (2014)	平成27 年度 (2015)	平成28 年度 (2016)	平成29 年度 (2017)	平成30 年度 (2018)	令和元 年度 (2019)	令和2 年度 (2020)	令和3 年度 (2021)
図書 (冊数)	和書	109,109	100,348	102,029	102,793	103,502	104,043	104,553	105,001	103,647	105,850
	洋書	10,135	12,153	12,368	12,397	12,475	12,497	12,527	13,953	13,983	13,992
	計	119,244	112,501	114,397	115,190	115,977	116,540	117,080	118,954	117,630	119,842
学術雑誌 (種類数)	和文	522	485	865	446	448	455	471	473	477	479
	洋文	170	171	264	231	231	226	226	226	226	227
	計	692	656	1129	677	679	681	697	699	703	706

10年の年表(平成24年度～令和3年度)

平成24年度(2012)

- 4. 4 第51回入学式
- 4. 19 1年生合宿研修(～20日:滋賀県・マキノセミナーハウス)
- 5. 19 近畿地区高等専門学校体育大会(野球)(～20日)
- 6. 4 トライやる・ウィーク(～8日)
- 6. 13 リーダー研修
- 6. 14 3年生合宿研修(～15日)
- 6. 23 文化発表会(～29日)
- 6. 23 保護者懇談会(～7月1日)
- 6. 25 授業の公開(～29日)
- 6. 30 近畿地区高等専門学校体育大会(～7月16日)
- 7. 20 イブニングセミナー
- 8. 17 オープンキャンパス(～18日)
- 8. 18 全国高等専門学校体育大会(～28日)
- 9. 5 カリフォルニア大学アーバイン校研修留学(～25日)
- 9. 21 イブニングセミナー
- 9. 27 技術講演会
- 9. 27 厚生補導研究会
- 9. 28 正門完成披露式(9月27日完成)
- 10. 3 2年生バス旅行
- 10. 10 球技大会(～11日:10日全校避難訓練)
- 10. 13 全国高等専門学校プログラミングコンテスト(～14日)
- 10. 15 5年生見学旅行(～19日:建築学科のみ10月14日～18日)
- 10. 27 高専祭(～28日)
- 11. 4 近畿地区高等専門学校ロボットコンテスト
- 11. 10 近畿地区高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト(～11日)
- 11. 10 全国高等専門学校デザインコンペティション(～11日)
- 11. 16 イブニングセミナー
- 11. 17 近畿地区高等専門学校体育大会(ラグビー)(～20日)
- 11. 17 創立50周年記念式典・講演会
- 12. 10 サッカー大会(～1月17日)
- 12. 14 留学生懇談会
- 12. 15 CADコンテスト(～16日)
- 1. 18 イブニングセミナー
- 1. 25 入学試験(推薦選抜)
- 1. 26 親子で楽しむロボット教室
- 1. 29 有識者懇談会

- 1. 30 ものづくり支援セミナー
- 2. 24 入学試験(学力選抜)
- 3. 15 イブニングセミナー
- 3. 15 オークランド大学ELA海外研修(～4月1日)
- 3. 20 第47回卒業証書授与式・第16回修了証書授与式

平成25年度(2013)

- 4. 4 第52回入学式
- 4. 18 1年生合宿研修(～19日:滋賀県・マキノセミナーハウス)
- 5. 18 近畿地区高等専門学校体育大会(野球)(～19日)
- 6. 3 トライやる・ウィーク(～7日)
- 6. 7 リーダー研修(～8日)
- 6. 13 3年生合宿研修(～14日)
- 6. 22 文化発表会(～28日)
- 6. 22 保護者懇談会(～30日)
- 6. 24 授業の公開(～28日)
- 7. 6 近畿地区高等専門学校体育大会(～7月21日)
- 7. 19 イブニングセミナー
- 8. 16 全国高等専門学校体育大会(～9月1日)
- 8. 23 オープンキャンパス(～24日)
- 9. 3 カリフォルニア大学アーバイン校研修留学(～22日)
- 9. 20 イブニングセミナー
- 9. 25 技術講演会
- 9. 26 厚生補導研究会
- 10. 9 球技大会(～10日:9日全校避難訓練)
- 10. 13 近畿地区高等専門学校ロボットコンテスト
- 10. 13 全国高等専門学校プログラミングコンテスト(～14日)
- 10. 16 2年生バス旅行
- 10. 21 5年生見学旅行(～25日:建築学科のみ10月21日～26日)
- 11. 2 高専祭(～3日)
- 11. 8 全国高等専門学校デザインコンペティション(～10日)
- 11. 15 イブニングセミナー
- 11. 16 近畿地区高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト(～17日)
- 11. 16 近畿地区高等専門学校体育大会(ラグビー)(～19日)
- 11. 22 教養行事
- 11. 24 全国高等専門学校ロボットコンテスト
- 12. 10 サッカー大会(～1月16日)
- 12. 20 留学生懇談会

- 1. 17 イブニングセミナー
- 1. 24 入学試験(推薦選抜)
- 1. 29 ものづくり支援セミナー
- 2. 7 有識者懇談会
- 2. 16 入学試験(学力選抜)
- 3. 14 イブニングセミナー
- 3. 15 オークランド大学ELA海外研修(～4月1日)
- 3. 20 第48回卒業証書授与式・第17回修了証書授与式

平成26年度(2014)

- 4. 4 第53回入学式
- 4. 17 1年生合宿研修(～18日：滋賀県・マキノセミナーハウス)
- 5. 17 近畿地区高等専門学校体育大会(野球)(～18日)
- 6. 2 トライやる・ウィーク(～6日)
- 6. 18 リーダー研修
- 6. 19 3年生合宿研修(～20日)
- 6. 28 文化発表会(～7月4日)
- 6. 28 保護者懇談会(～7月6日)
- 6. 28 近畿地区高等専門学校体育大会(～7月22日)
- 6. 30 授業の公開(～7月4日)
- 7. 18 イブニングセミナー
- 8. 19 全国高等専門学校体育大会(～31日)
- 8. 23 オープンキャンパス(～24日)
- 9. 3 カリフォルニア大学アーバイン校研修留学(～25日)
- 9. 19 イブニングセミナー
- 9. 25 技術講演会
- 9. 29 厚生補導研究会
- 10. 9 球技大会(～10日：9日全校避難訓練)
- 10. 15 2年バス旅行
- 10. 18 全国高等専門学校プログラミングコンテスト(～19日)
- 10. 20 5年見学旅行(～24日：建築学科のみ 10月21日～25日)
- 10. 26 近畿地区高等専門学校ロボットコンテスト
- 11. 1 高専祭(～2日)
- 11. 8 全国高等専門学校デザインコンペティション(～9日)
- 11. 13 近畿地区高等専門学校体育大会(ラグビー)(～16日)
- 11. 15 近畿地区高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト(～16日)
- 11. 21 教養行事
- 11. 21 イブニングセミナー

- 11. 23 全国高等専門学校ロボットコンテスト
- 11. 28 有識者懇談会
- 12. 11 サッカー大会(～1月20日)
- 12. 12 留学生懇談会
- 1. 16 イブニングセミナー
- 1. 23 入学試験(推薦選抜)
- 1. 28 ものづくり支援セミナー
- 2. 15 入学試験(学力)
- 2. 25 有識者懇談会
- 3. 13 イブニングセミナー
- 3. 13 オークランド大学 ELA 海外研修(～3月31日)
- 3. 20 第49回卒業証書授与式・第18回修了証書授与式

平成27年度(2015)

- 4. 3 第54回入学式
- 4. 16 1年生合宿研修(～17日：滋賀県・マキノセミナーハウス)
- 5. 9 近畿地区高等専門学校体育大会(野球)(～10日)
- 6. 1 トライやる・ウィーク(～5日)
- 6. 18 3年生合宿研修(～19日)
- 6. 27 保護者懇談会(7月5日)
- 6. 27 近畿地区高等専門学校体育大会(～7月20日)
- 6. 29 授業の公開(～7月3日)
- 6. 27 文化発表会(～7月6日)
- 7. 17 イブニングセミナー
- 8. 21 オープンキャンパス(～22日)
- 8. 14 全国高等専門学校体育大会(～30日)
- 9. 1 カリフォルニア大学アーバイン校研修留学(～24日)
- 9. 11 技術講演会
- 9. 18 イブニングセミナー
- 9. 28 厚生補導研究会
- 10. 8 スポーツ大会(～9日：8日全校避難訓練)
- 10. 11 全国高等専門学校プログラミングコンテスト(～12日)
- 10. 13 2年バス旅行
- 10. 19 5年見学旅行(～23日：建築学科 10月18日～24日、機械工学科 10月18日～22日)
- 10. 18 近畿地区高等専門学校ロボットコンテスト
- 10. 31 高専祭(～11月1日)
- 11. 14 全国高等専門学校デザインコンペティション(～15日)
- 11. 14 近畿地区高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト(～15日)

- | | | | |
|---------------------|-------------------------------|---------------------|---|
| 11.14 | 近畿地区高等専門学校体育大会(ラグビー)(~17日) | 11.12 | 近畿地区高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト(~13日) |
| 11.20 | 教養行事 | 11.18 | イブニングセミナー |
| 11.20 | イブニングセミナー | 11.19 | 近畿地区高等専門学校体育大会(ラグビー)(~22日) |
| 11.22 | 全国高等専門学校ロボットコンテスト | 11.20 | 全国高等専門学校ロボットコンテスト |
| 12.14 | サッカー大会(~1月18日) | 11.22 | 教養行事 |
| 12.22 | 留学生懇談会 | 12.9 | 留学生懇談会 |
| 1.15 | イブニングセミナー | 12.17 | 全国高等専門学校デザインコンペティション(~18日) |
| 1.22 | 入学試験(推薦選抜) | 1.20 | イブニングセミナー |
| 1.27 | 有識者懇談会 | 1.20 | 入学試験(推薦選抜) |
| 2.10 | ものづくり支援セミナー | 1.25 | ものづくり支援セミナー |
| 2.21 | 入学試験(学力選抜) | 2.6 | 有識者懇談会 |
| 3.11 | オークランド大学ELA海外研修(~29日) | 2.19 | 入学試験(学力選抜) |
| 3.18 | イブニングセミナー | 3.3 | オークランド大学ELA海外研修(~27日) |
| 3.20 | 第50回卒業証書授与式・第19回修了証書授与式 | 3.3 | アデレード高校留学(~28日) |
| 平成28年度(2016) | | 3.10 | イブニングセミナー |
| 4.5 | 第55回入学式 | 3.17 | 第51回卒業証書授与式・第20回修了証書授与式 |
| 4.27 | 1年生合宿研修(~28日:滋賀県・マキノセミナーハウス) | 3.20 | Overseas Community Project(カンボジア)(~30日) |
| 5.14 | 近畿地区高等専門学校体育大会(野球)(~15日) | 3.20 | ミシシッピ大学英語研修(~4月3日) |
| 5.30 | トライやる・ウィーク(~6月3日) | 平成29年度(2017) | |
| 6.16 | 3年生合宿研修(~17日) | 4.5 | 第56回入学式 |
| 6.25 | 文化発表会(~7月4日) | 4.20 | 1年生合宿研修(~21日:滋賀県・マキノセミナーハウス) |
| 6.25 | 保護者懇談会(~7月3日) | 5.13 | 近畿地区高等専門学校体育大会(野球)(~14日) |
| 6.27 | 授業の公開(~7月1日) | 6.5 | トライやる・ウィーク(~9日) |
| 7.9 | 近畿地区高等専門学校体育大会(~23日) | 6.24 | 文化発表会(~7月3日) |
| 7.15 | イブニングセミナー | 6.24 | 保護者懇談会(~7月2日) |
| 8.17 | 全国高等専門学校体育大会(~9月4日) | 6.26 | 授業の公開(~30日) |
| 8.19 | オープンキャンパス(~20日) | 7.1 | 近畿地区高等専門学校体育大会(~23日) |
| 8.28 | ペナン研修留学(~9月10日) | 8.18 | オープンキャンパス(~19日) |
| 8.30 | カリフォルニア大学アーバイン校研修留学(~9月22日) | 8.18 | 全国高等専門学校体育大会(~27日) |
| 8.31 | ガジャマダ大学語学研修(~9月23日) | 8.18 | ISTS(フィンランド)(~28日) |
| 9.4 | カナダ高校留学(~30日) | 8.20 | トビタテ!留学 JAPAN(イタリア)(~9月10日) |
| 9.16 | イブニングセミナー | 8.25 | 厚生補導研究会 |
| 9.21 | 技術講演会 | 8.31 | カナダ高校留学(~9月29日) |
| 9.26 | 厚生補導研究会 | 9.4 | ペナン研修留学(~9日) |
| 10.8 | 全国高等専門学校プログラミングコンテスト(~9日) | 9.14 | 技術講演会 |
| 10.11 | 2年バス旅行 | 9.17 | デ・ラ・サール大学サイエンス高校留学(~30日) |
| 10.13 | スポーツ大会(~14日:13日全校避難訓練) | 10.8 | 全国高等専門学校プログラミングコンテスト(~9日) |
| 10.16 | 近畿地区高等専門学校ロボットコンテスト | | |
| 10.17 | 5年見学旅行(~21日:建築学科のみ10月15日~19日) | | |
| 10.29 | 高専祭(~30日) | | |

- | | | | |
|---------------------|--|--------------------------|---|
| 10.17 | スポーツ大会(～18日:17日全校避難訓練) | | ト(～28日) |
| 10.22 | 近畿地区高等専門学校ロボットコンテスト | 10.28 | 近畿地区高等専門学校ロボットコンテスト |
| 10.23 | 5年見学旅行(～27日:電気情報工学科のみ
10月24日～27日) | 11. 2 | 教養行事 |
| 10.26 | 2年バス旅行 | 11. 3 | 高専祭(～4日) |
| 10.26 | 3年合宿研修(～27日) | 11. 9 | 留学生懇談会 |
| 11. 2 | 留学生懇談会 | 11.10 | 全国高等専門学校デザインコンペティション(～11日) |
| 11.10 | 教養行事 | 11.12 | 近畿地区高等専門学校体育大会(ラグビー)(～14日) |
| 11.10 | 近畿地区高等専門学校体育大会(ラグビー)(～13日) | 11.23 | 近畿地区高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト(～24日) |
| 11.11 | 高専祭(～12日) | 11.25 | 全国高等専門学校ロボットコンテスト |
| 11.11 | 近畿地区高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト(～12日) | 1.19 | 入学試験(推薦選抜) |
| 12. 2 | 全国高等専門学校デザインコンペティション(～3日) | 1.26 | 全国高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト(～27日) |
| 1.20 | 入学試験(推薦選抜) | 2.17 | 入学試験(学力選抜) |
| 1.27 | 全国高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト(～28日) | 3. 9 | クイーンズランド工科大学研修(～30日) |
| 1.31 | 有識者懇談会 | 3.14 | Overseas Community Project(カンボジア)(～31日) |
| 2.18 | 入学試験(学力選抜) | 3.20 | 第53回卒業証書授与式・第22回修了証書授与式 |
| 3. 4 | アデレード高校留学(～21日) | 3.20 | 韓国スタディツアー(～25日) |
| 3.16 | 韓国スタディツアー(～21日) | | |
| 3.19 | Overseas Community Project(カンボジア)(～4月1日) | 令和元(平成31)年度(2019) | |
| 3.20 | 第52回卒業証書授与式・第21回修了証書授与式 | 4. 4 | 第58回入学式 |
| | | 4.18 | 1年生合宿研修(～19日:滋賀県・マキノパークホテル&セミナーハウス) |
| | | 5.11 | 近畿地区高等専門学校体育大会(野球)(～12日) |
| 平成30年度(2018) | | 6. 3 | トライやる・ウィーク(～7日) |
| 4. 4 | 第57回入学式 | 6.22 | 文化発表会 |
| 4.19 | 1年生合宿研修(～20日:滋賀県・マキノパークホテル&セミナーハウス) | 6.22 | 保護者懇談会(～30日) |
| 5.12 | 近畿地区高等専門学校体育大会(野球)(～13日) | 6.24 | 授業の公開(～28日) |
| 6. 4 | トライやる・ウィーク(～8日) | 6.29 | 近畿地区高等専門学校体育大会(～7月14日) |
| 6.23 | 文化発表会(～7月2日) | 8.10 | オープンキャンパス(～11日) |
| 6.23 | 保護者懇談会(～7月1日) | 8.17 | 全国高等専門学校体育大会(～9月1日) |
| 6.25 | 授業の公開(～29日) | 9.30 | 厚生補導研究会 |
| 7. 1 | 近畿地区高等専門学校体育大会(～22日) | 10.13 | 近畿地区高等専門学校ロボットコンテスト |
| 8. 3 | 厚生補導研究会 | 10.13 | 全国高等専門学校プログラミングコンテスト(～14日) |
| 8.10 | オープンキャンパス(～11日) | 10.28 | 5年見学旅行(～11月1日:建築のみ10月28日～11月2日) |
| 8.18 | 全国高等専門学校体育大会(～9月2日) | 10.31 | 2年バス旅行 |
| 9.26 | 技術講演会 | 10.30 | 3年合宿研修(～31日) |
| 10.16 | スポーツ大会(～17日:10月16日 全校避難訓練) | 11. 4 | 近畿地区高等専門学校体育大会(ラグビー)(～17日) |
| 10.22 | 5年見学旅行(～26日) | 11. 9 | 高専祭(～10日) |
| 10.24 | 2年バス旅行 | | |
| 10.24 | 3年合宿研修(～25日) | | |
| 10.27 | 全国高等専門学校プログラミングコンテスト | | |

- 11. 9 近畿地区高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト(～10日)
- 11.15 教養行事
- 11.22 留学生懇談会
- 11.24 全国高等専門学校ロボットコンテスト
- 12. 7 全国高等専門学校デザインコンペティション(～8日)
- 12.10 スポーツ大会(～11日)
- 1.18 入学試験(推薦選抜)
- 1.25 全国高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト(～26日)
- 2.16 入学試験(学力選抜)
- 3.20 第54回卒業証書授与式・第23回修了証書授与式
- 10.31 近畿地区高等専門学校ロボットコンテスト
- 11. 9 トライやる・ウィーク(～12日)
- 11.13 近畿地区高等専門学校体育大会(ラグビー)(～20日)
- 11.20 高専祭(～21日)
- 11.20 近畿地区高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト(～21日)
- 11.28 全国高等専門学校ロボットコンテスト
- 12. 4 全国高等専門学校デザインコンペティション
- 12.14 スポーツ大会(～15日:12月14日全校避難訓練)
- 1.17 5年見学旅行(～21日:都市システム工学科のみ11月19日～21日)
- 1.20 3年合宿研修(～21日)
- 1.20 2年バス旅行
- 1.22 入学試験(推薦選抜)
- 1.22 全国高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト
- 2.13 入学試験(学力選抜)
- 3.20 第56回卒業証書授与式・第25回修了証書授与式

令和2年度(2020)

- 4. 1 新型コロナウイルス感染拡大のため臨時休業(～5月6日)
- 7.23 保護者懇談会(～31日)
- 7.27 授業の公開(～31日)
- 8.10 オープンキャンパス(～11日)
- 10.10 全国高等専門学校プログラミングコンテスト(～11日)
- 10.18 近畿地区高等専門学校ロボットコンテスト
- 10.22 2年バス旅行
- 10.31 高専祭(～11月1日)
- 11.14 近畿地区高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト(～15日)
- 11.29 全国高等専門学校ロボットコンテスト
- 12. 5 全国高等専門学校デザインコンペティション(～6日)
- 12.15 スポーツ大会(～16日:12月15日全校避難訓練)
- 1.23 入学試験(推薦選抜)
- 1.30 全国高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト
- 2.21 入学試験(学力選抜)
- 3.23 第55回卒業証書授与式・第24回修了証書授与式

令和3年度(2021)

- 4. 3 第60回入学式
- 6.26 保護者懇談会(～7月4日)
- 6.28 授業の公開(～7月2日)
- 6.26 近畿地区高等専門学校体育大会(～7月18日)
- 8. 7 オープンキャンパス(～8日)
- 9. 4 全国高等専門学校体育大会(～12月19日)
- 10. 9 全国高等専門学校プログラミングコンテスト



独立行政法人 国立高等専門学校機構
明石工業高等専門学校
 National Institute of Technology, Akashi College

明石工業高等専門学校学生歌

作詞 中小路 駿逸
 作曲 村山 貞雄

あけぼのの明石大門 どよむ潮の
 たましい
 かがやきに咲きいづる 若き魂
 けんがく
 研学のいしずえは 地底に徹り
 ちてい
 自治の鉄塔は 日輪に勢えり
 じち てうとう にちりん きお
 れいろ
 玲瓏と雲に映ゆ 明石高専

国土のあすを負う 若きともがら
 くにとつ お
 腕を組み あたらしき歩みをおこせば
 あゆ
 ししせん いなみくにはひ
 子午線に日ぞ白む 印南国原
 しんやま
 うら青き島山に 足音はこだます
 いちたう
 行き徹れ 一道を 明石高専

夕映の播磨灘 ひとみも遥かに
 ゆうばえ はりまなだ はる
 さいはての波の穂に 歌声のひびけば
 ほ
 潮騒は胸に満ち きらめく星座は
 しおさけ
 大なる未来図を 天空に描く
 みらいず てんくう えが
 えいこう とわ
 栄光 永遠にあれ 明石高専

編集後記

創立 60 周年の節目の年を迎え、ここに記念誌を発刊できますことを心から嬉しく思います。

今回の記念誌は、平成24（2012）年度から令和3（2021）年度の出来事を掲載しております。近年、高専での教育は国内外から注目を集めています。本校は、この10年の間に、グローバル高専モデル事業、アクティブ・ラーニング推進事業に採択され、先陣を切って高専の教育研究活動の推進に努めてまいりました。そして、今後もさらなる飛躍のために努力を重ねていく所存です。

この間、世界を揺るがす新型コロナウイルス感染症の流行という事態にも直面しました。日常生活、学生生活に様々な制限を強いられ、試行錯誤を繰り返す必要がありました。このような時期にあっても、高専での学生生活を充実したものにしようという学生の前向きな姿を目にすることができ、逞しさを感じております。

本記念誌を発行するにあたり、日頃からご支援いただいている同窓会を代表した同窓会長、学科・専攻科を代表した卒業生・修了生の皆様に原稿をご執筆いただき、誠にありがとうございました。

最後になりましたが、校長、各主事、各施設長、各学科長、各系長、課外活動指導教員、事務部長をはじめ所轄の事務職員の方々、編集にあたり多くの助言をいただきました関係各位に心から感謝いたします。

（編集担当）

学校だより 創立60周年記念誌

令和4年12月26日発行

編集
発行

独立行政法人国立高等専門学校機構

明石工業高等専門学校 広報委員会

〒674-8501 兵庫県明石市魚住町西岡679-3

TEL(078)946-6017
